

## 1. 国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

### (1) 東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用

- ① 海外商談会参加等支援補助金 …… 1

### (2) インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大

- ② インドとの経済交流事業 …… 2
- ③ 台湾との経済交流事業 …… 3

### (3) 圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展

- ④ 圏域内企業情報データベースの充実、ビジネスマッチン …… 4
- ⑤ 産学・医工連携事業 …… 5
- ⑥ 山陰いいものマルシェプロジェクト …… 6

### (4) 国内およびインバウンド観光の推進

- ⑦ クルーズ客船寄港時のおもてなし …… 7
- ⑧ 圏域インバウンドプロモーション …… 8
- ⑨ 国内広域観光プロモーション …… 9
- ⑩ 人口集積地(発地型)誘客プロモーション事業 …… 10
- ⑪ 圏域内周遊促進及び受入環境充実事業 …… 11
- ⑫ 2025大阪・関西万博誘客事業 …… 12

## 2. 未来をひらく交通ネットワークの形成

### (1) 2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成

- (2) 重要港湾境港の利便性向上
- (3) 新幹線ネットワークの整備
- (4) 航空路線の充実

- ⑬ 圏域内の連携・交流推進 …… 13

## 3. 恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

### (1) 圏域への移住・定住の促進

- ⑭ 人材育成の共同化 …… 14
- ⑮ 文化・スポーツ交流促進事業 …… 15
- ⑯ 移住・定住等促進事業 …… 16

### (2) 自然環境の保全と活用

- ⑰ 自然環境の豊かさ・保全に係る普及啓発 …… 17

### (3) 健康長寿圏域の形成

### (4) 圏域内公共交通の利便性向上

## 4. その他

- ⑱ 圏域内外へのエリアプロモーション …… 18

## 中海・宍道湖・大山圏域市長会 主要事業一覧【圏域振興ビジョンとの対比】

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン		地方版総合戦略	
1. 活力にあふれる圏域づくり(産業振興)	事業概要	主要施策	主な重点プロジェクト
① 圏域内企業情報データベースの充実、ビジネスマッチング	圏域内の商工団体と行政で構成する「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会」と連携し、圏域内企業の連携支援を行う。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(3)圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
② 産学・医工連携事業	圏域内の商工団体、自治体、国立大学、国立工業高等専門学校、研究機関等で構成する「中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会」と連携し、圏域内企業の産学・医工連携支援を行う。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(3)圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
③ 海外商談会参加等支援補助金	海外で行われる商談会等に参加する圏域内の企業へ補助金交付等を行い、海外展開やインバウンドの推進に繋がる取組を支援する。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(1)東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
④ インドとの経済交流事業	インド・ケララ州との経済交流拡大を目指す覚書(MOU)の締結に基づき、企業進出やビジネスマッチング等の実現のため、密接な協力体制の構築支援、情報交換、視察交流等を行う。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(2)インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大
⑤ 台湾との経済交流事業	台北市との経済等交流促進を目的とした覚書の締結に合わせ、セミナー等を開催し、海外展開への機運の醸成を図る。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(2)インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大
⑥ 山陰いいものマルシェプロジェクト	山陰の中核地域である中海・宍道湖・大山圏域の官民組織が連携し、山陰が誇る「いいもの」を再発掘するとともに、JR西日本等とタイアップし、全国へ情報発信をする。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(3)圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
2. 訪ねてみたい圏域づくり(観光振興) ※中海・宍道湖・大山圏域観光局事業	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
① クルーズ船寄港時のおもてなし	クルーズ船寄港時、境夢みなとターミナル等にて交流イベントや観光案内を実施するなど、来訪する外国人観光客の周遊促進と満足度アップを図る。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
② 圏域インバウンドプロモーション	圏域を一体的に発信する利点を活かし、重要ターゲット国(韓国、台湾、香港、中国、欧米豪)を定め、JNTO、山陰DMOと役割分担し、国別に有効な観光プロモーションを実施する	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
③ 国内広域観光プロモーション	国内旅行市場が全体に占める観光消費は高いことから広域的に多様な情報を発信して誘客を促進し、圏域への経済効果を高める。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
④ 人口集積地(発地型)誘客プロモーション	人口集中地域である大都市部をターゲットとし、圏域の魅力や観光資源を積極的に情報発信し、圏域の認知度向上、観光誘客を図る。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
⑤ 圏域内周遊促進及び受入環境充実事業	地域連携DMOの役割である「稼げる圏域づくり」をめざし、圏域観光の魅力充実させ、国内外から圏域へ来訪する観光客の受け入れの充実を図るなど、リピーターの確保に繋がる取組を実施する。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
⑥ 2025大阪・関西万博誘客事業	大阪・関西万博の来場者(2,820万人(うち外国人350万人))にセカンドビジット先として山陰への来訪者獲得に繋がる取組を実施する。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(4)国内及びインバウンド観光の推進
3. 次代につなぐ圏域づくり(保全・継承と活用)	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
① 自然環境の豊かさ・保全に係る普及啓発	圏域の次代を担う子どもたちへ、自然環境に関する学習機会の提供等を行い、圏域の自然の豊かさや環境保全について普及啓発を図る。	3. 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	(2)自然環境の保全と活用
4. とともに歩む圏域づくり(連携と協働)	事業概要	主要施策	重点プロジェクト
① 圏域内外へのエリアプロモーション	圏域振興ビジョンに示す圏域の将来像、ビジョンや市長会の活動の広報周知に努めるとともに、圏域内での一体感醸成、圏域外における認知度向上のための情報発信を行う。	1. 圏域内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成 2. 未来をひらく交通ネットワークの形成 3. 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	※全プロジェクト共通
② 圏域内の連携・交流推進	圏域内の行政間や民間団体間、行政と民間団体等の更なる連携と交流を図る	2. 未来をひらく交通ネットワークの形成	(1)2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成 新幹線ネットワークの整備
③ 人材育成の共同化	圏域内における人的交流の推進による一体感の醸成を図り、圏域を担う人材育成に向けた取組を行う。	3. 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	(1)圏域への移住・定住の促進
④ 文化・スポーツ交流促進事業	圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術など、相互交流を推進することにより、魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。	3. 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	(1)圏域への移住・定住の促進
⑤ 移住・定住等促進事業	圏域人口60万人の維持に向けた移住・定住等の促進を図る。	3. 恵まれた生活環境を活かした圏域の形成	(1)圏域への移住・定住の促進

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 海外商談会参加等支援事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	海外で行われる商談会等に参加する圏域内の企業等に対して補助金を交付し、企業等の海外への展開やインバウンドの推進に繋がる取組を支援する。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
		補助事業者数	11	8	-	20
	目標(何を達成するのか)					
	補助金の利用促進(補助事業者数)					

事業内容	<p>圏域の事業者が、海外で開催される観光及び物産に関する商談会等へ参加するための経費を一部補助する。</p> <p>[対象者] 圏域5市に本社または主たる事業所を有する中小企業等または複数の企業により構成されるグループ・団体</p> <p>[補助金額] 原則、補助対象経費の1/2 補助上限額10万円 ただし、以下の場合は、①に応じた補助率、補助上限額。 ①韓国、中国、インド及び台湾での商談会に参加等する場合 補助対象経費の2/3 補助上限額15万円</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
1 海外商談会参加等支援補助金	1 海外商談会参加等支援補助金 11件 1,552千円	1 海外商談会参加等支援補助金 8件 1,062千円 令和5年10月から再開した米子ソウル便の活用と令和7年の米子台湾便の就航を見据えて、旅行商品商談会への参加事業者を支援した。	1 海外商談会参加等支援補助金 20件 3,000千円 韓国での商談会参加を引き続き支援するとともに、令和7年5月就航の米子台湾便の効果を考慮し台湾での商談会参加事業者の増加を見込む。 旅行商品のみならず、IT分野、介護福祉分野での商品・サービス提供事業者の進出を促す。

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,552	3,000		1,062	3,000
財源内訳					
国・県支出金	0	0		0	0
補助金	0	0		0	0
特定負担金	0	0		0	0
一般負担金	1,552	3,000		1,062	3,000
歳入合計	1,552	3,000		1,062	3,000

課題	<p>1 本制度の利用事業者が固定化する傾向にある。</p> <p>2 県、市、支援機関の補助金の効果的な使い分けや、併用も可能であることなどの情報発信が不足している。</p>	方向性	<p>米子空港から韓国・台湾への直行便就航の好機を捉え、圏域内の各支援組織と連携して本制度の情報発信と丁寧な相談支援を行い、海外で開催される商談会に参加意欲のある事業者を支援する。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用 ・インバウンド観光の促進
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	・圏域内企業の海外展開支援 ・圏域インバウンドプロモーション
	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用 ・インド台湾との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展 ・国内およびインバウンド観光の推進
KPI		

本事業の経過及び関連する主要データ  
『海外商談会参加等支援補助金』(H24年5月1日施行)

○補助金交付実績の推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
補助事業者数	30	18	18	5	13	15	5	16	0	0	25	11	8
補助金額(千円)	3,455	3,285	2,898	663	1,818	2,834	308	1,364	0	0	3,600	1,552	1,062

○対象国 補助事業別 (件)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
香港	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
中国	2	1	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9
韓国	2	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0	1	4	15
台湾	15	1	0	2	3	1	1	16	0	0	25	10	4	78
ロシア	5	6	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
米国	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
フランス	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
米国・ドバイ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
中国・台湾・タイ等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ギリシャ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ベトナム	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
タイ	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	7
インドネシア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
シンガポール	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
インド	0	0	0	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0	12
計	30	18	18	5	13	15	5	16	0	0	25	11	8	164

○補助事業者所在地 各市別件数 (件)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
安来市	3	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	10
米子市	2	1	1	0	3	2	0	1	0	0	3	0	0	13
松江市	15	7	8	3	6	6	4	11	0	0	17	6	5	88
出雲市	8	8	7	2	2	6	1	3	0	0	4	4	1	46
境港市	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	7
計	30	18	18	5	13	15	5	16	0	0	25	11	8	164

○補助対象経費

区分	内容
(1) 会場費	出展料、工事費、備品使用料など参加に必要な経費
(2) 現地通訳費	商談時における現地通訳に要する経費(オンライン商談会の通訳費含む)
(3) 輸送費	展示品、パンフレット等の輸送に係る経費、保険料等(オンライン商談会のためのサンプル品等の輸送費含む)
(4) 宣伝活動費	自社又は自社製品に係るパンフレット、展示パネル、PRIに要する経費 翻訳費用等を含む。
(5) 旅費	宿泊費及び交通費に限り、食費及び日当を除く。宿泊費は一泊あたり19,300円を上限とする。航空賃はエコノミークラス相当額とする。1事業について1名分とする。

総合戦略推進委員会での評価及び意見

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 インドとの経済交流事業

事業の目的と目標	目的(何のために)		数値目標			
	インドケララ州との経済交流拡大を目指す覚書(MOU)の締結に基づき、企業進出やビジネスマッチング等の実現のため、密接な協力体制の構築支援、情報交換、視察交流等を行う。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	インドIT等人材の圏域内企業への就職者数(人)	4 (短期3,長期1)	5 (短期3,長期2)		
	・インドIT等人材の圏域内企業への就職 ・圏域企業とインド企業との業務提携 ・インド人留学生インターンシップ受入れ	日印間業務提携企業数(社)	1	1		
		インド人留学生インターンシップ受入れ人数(人)	8 (短期5,長期3)	7 (短期のみ)		11 (短期6,長期5)

事業内容	<p>1 平成27年にインドケララ州政府と締結した経済交流を拡大する覚書(MOU)の具体化を図るため、山陰インド協会等の関係団体と連携し、総合戦略に掲げる「圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出」及び「人材確保実現に取り組む。</p> <p>2 圏域とインド・ケララ州をつなぐグローバルな視野を持つIT等理系分野及び日印間のビジネスを担う高度人材を、留学制度やインターンシップ、ケララ州での日本語教育を通じて養成し、圏域IT企業をはじめとする企業への就職及び日印企業の業務提携に繋げる。</p> <p>3 「中海・宍道湖・大山圏域インド人材受入・企業連携推進事業実行委員会」へ委託し、事業実施する。</p> <p>4 令和7年(2025)10月ケララ州コチ市において、「経済交流覚書(MOU)」締結10周年を節目に拡充・更新のための調印を行い交流の具体化・重層化を図る。併せて「ジャパンメラ(日本産業展・BtoB商談会)」に圏域企業・団体が出展し、コロナ以降途絶えていたインドへの経済進出の足掛かりとする。</p>
------	---

事業の成果及び実績	R5実績	R6実績	R7計画
	<p>1 インターンシップ開催 ①【長期】ラジャギリ工業技術大学から島根大学への交換留学生 3名 ②【短期】インドケララ州の大学生 5名</p> <p>2 日本語教育支援(オンライン)</p> <p>3 ビジネスピッチコンテストの開催</p>	<p>1 インターンシップ開催 ①【短期】インドケララ州の大学生 7名 受入企業3社</p> <p>2 日本語教育支援(オンライン)</p>	<p>1 10月 MOU更新の訪印 2 10月 ジャパンメラ出展</p> <p>3 インターンシップ開催 ①【長期】ラジャギリ工業技術大学等から島根大学への交換留学生 5名 受入企業5社 ②【短期】インドケララ州の大学生 6名</p> <p>3 日本語教育支援(オンライン)</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6			R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	10,476	15,295		10,188	23,710	・地方創生推進交付金(H30~R2年度)
財源内訳						
国・県支出金	0	0		0	0	
補助金	0	0		0	0	
特定負担金	0	0		0	0	
一般負担金	10,476	15,295		10,188	23,710	
歳入合計	10,476	15,295		10,188	23,710	

課題	<p>1 圏域内企業に就職する人数も増えてきている状況ではあるが転職、自己都合による帰国、人事異動により、離圏がある。</p> <p>2 受入企業数の拡大と獲得人材をできるだけ圏域にとどめる方法・対策について検討する必要がある。</p>	方向性	<p>1 令和7年10月にはケララ州とのMOU(経済交流覚書)の拡充・更新を行い、交流の分野拡大と深化を図る。</p> <p>2 島根大学交換留学生など、より高い日本語能力を有し日本社会を理解した人材登用に取り組み、圏域企業への有能なIT人材・理系人材の獲得を支援する。</p> <p>3 IT分野人材のみならず、介護や輸送分野での人材不足に対応するための事業者支援施策に取り組む。</p>
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現
	主な取組み	圏域内企業の海外展開支援
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・インド(ケララ州)・台湾(台北市)との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	日本語教育支援(オンライン)		
	10月~3月	長期インターンシップ受け入れ		
	1月~2月	短期インターンシップ受け入れ		
	10月	MOU更新(訪印)		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【本事業の経過及び参考動向】	<p>H24年10月 インド哲学、比較思想学の世界的権威で松江市名誉市民の故中村元博士を顕彰する中村元記念館が松江市八束町に開館。</p> <p>H25年 6月 山陰インド協会設立、第1回インド経済視察団の実施。</p> <p>H26年11月 インド経済視察団として、5市長参加。南インドケララ州で州政府知事やコチ市長らと懇談。</p> <p>H27年12月11日 中海・宍道湖・大山圏域市長会とケララ州政府、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会とINJACK(印日商工会議所ケララ)が経済交流覚書(MOU)調印。首脳会談を前にした安倍首相、モディ首相に報告。</p> <p>H29年 2月 ケララ産業展へブース初出展</p> <p>11月 ジャパンメラへ圏域企業出展、圏域IT企業インド市場視察</p> <p>H30年 9月 市長会や島根大学等がケララ州へ日本語教員を派遣。</p> <p>R 1年11月 ケララ州首相ほか政府代表団が初来圏。</p> <p>R 3年 2月 山陰・ケララ州 オンラインビジネスフォーラム開催</p>
【中海・宍道湖・大山圏域インド人材受入・企業連携推進事業実行委員会】	<p>〔委員構成〕</p> <p>○島根大学学術研究院理工学系教授 ○(一社)島根県情報産業協会理事及び監事 ○しまねOSS協議会会長</p> <p>○経済産業省 中国経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課長 ○(独)日本貿易振興機構島根貿易情報センター所長</p> <p>○島根県産業振興課産業デジタル推進室長 ○鳥取県産業未来創造課長 ○山陰インド協会理事事務局長、</p> <p>○中海・宍道湖・大山圏域市長会 事務局長及び5市産業振興担当部長</p> <p>○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会 幹事長及び幹事 ○コアメンバー代表</p> <p>○顧問:(一財)Rubyアソシエーション理事長</p> <p>〔事務局〕</p> <p>松江市 まつえ産業支援センター(～R5年度) 新産業創造課(R6年度～)</p>
【事業状況】	<p>就職先企業</p> <p>H30 (株)モンスターラボ 2名 (株)オネスト 2名 (株)島根県情報処理センター 1名</p> <p>R3 東亜ソフトウェア(株) 2名</p> <p>R4 (株)ERISA 1名 (株)プレイブスタジオ 1名</p> <p>R5 東亜ソフトウェア(株) 2名 プレイブスタジオ 1名</p> <p>R6 東亜ソフトウェア(株) 5名</p>

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
1	国としての支援(ODA)は以前に比べ厳格化されてきており、中小企業のリスクが大きく、海外進出は行き詰まっているのが現状。インターンシップ等の人的交流に力を入れることは、方向性としては良い。(R4年)
2	R2年度をもって交付金事業としての取組は終わるわけだが、頑張っている事業なので、今後も継続して取組を進めて欲しい。(R3意見)
3	海外への戦略は限定した国をターゲットにせずに多角的に戦略を練るべき。効果の有無、費用をどれくらいかけるかを今一度検討し、戦略を練っていかないと。出雲にはインド人材を受け入れた企業もあり、本人や企業から話を聞く限りでは、この事業を前向きに捉えている。人的交流は良いことだと思っている。(R2意見)
4	表向きやる気はあっても結果がすべてではないか。(R2意見)
5	インターンシップの14人が多いのか少ないのか、結構費用もかかってましたので、費用対効果が適当なのか。課題をしっかりと今回の事業を通して検証してほしい。(R1意見)
6	インドは、これからの人口爆発の国でもありますし、市場としても人材としても注目することはいいと思います。ただ費用対効果の部分はどうかなと思う。(R1意見)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内企業の海外展開支援事業 台湾との経済交流事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画	
台湾との経済交流促進による中小企業活性化	市長会と台北市間の経済交流促進を目的とした覚書の締結に合わせて、圏域企業の海外展開への機運醸成を図る。また春節前建国花市に合わせて圏域PRを行う。	台湾における台湾との貿易額(貨物の通関額)(百万円)	3,257	4,064		4,760
	目標(何を達成するのか)	商談会等におけるマッチング件数の割合(%)	3	42		40
		商談会等における成約及び成約見込み数の割合(%)	0	2		7
		台湾向け商品の作成・提案件数	0	32		100

事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中海・宍道湖・大山圏域市長会と台北市との覚書の締結に合わせ、圏域企業の海外展開への機運の醸成を図る。</li> <li>2 春節前建国花市、台北温泉祭に合わせた圏域PRを行う。</li> <li>3 圏域企業と台湾との経済交流を推進する。</li> </ol>
------	---

事業の成果及び実績	R5実績	R6実績	R7計画
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事業推進のための支援組織立上げ</li> <li>2 圏域内企業の「フード台北(台北国際食品展)」への参加支援。</li> <li>3 圏域企業への台湾に係る意識調査、台湾での調査</li> <li>4 台湾での経済活動促進に向けたセミナー等の開催。</li> <li>5 春節前建国花市、台北温泉祭に合わせた圏域PR</li> <li>6 台北市との交流促進のため、文化交流イベント(どじょうすくい踊りの披露・体験)を開催。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 台湾人材の雇用 6月 葉可全国際交流員</li> <li>2 事業推進のための支援組織運営</li> <li>3 販売戦略・商品、製品、サービス開発に向けた支援 現地コンサルへの業務委託</li> <li>4 ビジネスマッチングの開催 11月</li> <li>5 春節前建国花市 1月、台北温泉祭 10月に合わせた圏域PR</li> <li>6 圏域内企業の「フード台北(台北国際食品展)」等への参加支援 6月 1社</li> <li>7 台北市との交流促進のため、文化交流イベントを開催。2月建国花市</li> <li>8 圏域内企業、支援機関、行政向けの台湾セミナー開催 10月、1月</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 台湾人材の雇用 葉可全国際交流員</li> <li>2 事業推進のための支援組織運営</li> <li>3 販売戦略・商品、製品、サービス開発に向けた支援 現地コンサルへの業務委託</li> <li>4 ビジネスマッチングの開催 10月 in出雲市</li> <li>5 春節前建国花市 2月、台北温泉祭10月に合わせた圏域PR</li> <li>6 圏域内企業の「フード台北(台北国際食品展)」等への参加支援。6月 2社</li> <li>7 台北市との交流促進のため、文化交流イベントを開催。2月建国花市</li> <li>8 圏域内企業、支援機関、行政向けの台湾セミナー開催 10月</li> <li>9 R8台湾大学生インターンシップ受入準備</li> <li>10 TJPO(台日産業連携推進オフィス)スマートソリューション連携事業 11月IT商談会 in米子市</li> </ol>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		
事業費	10,354	15,830		12,476	16,430	
財源内訳	国・県支出金	3,750	5,255		3,177	5,399
	補助金	0	0		0	0
	特定負担金	0	0		0	0
	一般負担金	6,604	10,575		9,299	11,031
歳入合計	10,354	15,830		12,476	16,430	

課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和6年から台湾人材を雇用、台湾進出企業への相談支援やセミナー、台湾バイヤーとのマッチングなどを主催するも、認知度不足により参加企業数が少ない状況である。</li> <li>2 台北温泉祭や建国花市での観光・物産PRを継続しているが、より効果的な方策の検討も必要である。</li> <li>3 食品以外の分野や人材交流への取り組みも経済交流として求められる。</li> </ol>	方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 台湾交流事業の認知度を上げるためチラシ配布や個別訪問を強化し、企業の意欲を引き出す。</li> <li>2 セミナーやビジネスマッチングの手法を見直し、より参加しやすく成果を出せる仕組みとする。</li> <li>3 米子台湾便就航の好機を生かして圏域の観光・物産PRを強化し誘客を促す。</li> <li>4 IT分野や大学生インターンシップなどの新たな取組で交流の幅を広げる。</li> </ol>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・北東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現 ・インバウンド観光の推進
	主な取組み	圏域内企業の海外展開支援 ・圏域インバウンドプロモーション
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	・インド台湾との経済交流の拡大 ・圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展 ・国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	5~6月	TJPO来圏企業訪問、台湾現地での関係機関協議	11月	台湾IT企業と圏域企業の商談会 in米子市
	6月	台湾での商談会「フード台北」への出展支援	10月	台北温泉祭での圏域PR
	10月	台湾進出企業向けセミナー	1月	建国花市での圏域PR
	10月	台湾食品バイヤーとのビジネスマッチングin出雲市		

本事業の経過及び関連する主要データ	
<p>【本事業の経過及び参考動向】</p> <p>H26年7月25日 松江市と台北市間の交流促進覚書締結。 〔覚書内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報等の相互発信と共有、観光広報活動の積極的支援する。</li> <li>・経済、観光、文化、教育等、多方面での交流を活性化させるため、関係団体が行う活動を支援する。</li> </ul> <p>※有効期間:5年。(有効期間満了時、両市は公文書で延長期間を決定し覚書を締結すると記載あり)</p> <p>H31年1月 圏域5市長が台北市へ訪問し、柯文哲台北市長ほか幹部を表敬懇談。H31年から5か年の「5市と台北市」における経済等交流促進覚書を締結し、交流活動を推進することを確認。</p> <p>R4年10月 圏域と台北市の交流促進覚書を締結 R5年1月以降 経済界と共に、台北市内の経済団体、台日産業連携推進オフィス(TJPO)、日本台湾交流協会、台湾貿易センター</p> <p>(TAITRA)を訪問し、今後の経済 交流に向けて意見交換</p> <p>R7年5月 TJPOが来圏し、5市を訪問して圏域IT企業や支援組織との面会、意見交換</p> <p>〔覚書内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 観光誘客・物産の流通促進に向けたプロモーション</li> <li>2 産業・経済分野における連携・協力</li> <li>3 青少年等による文化・芸術・スポーツ等の交流</li> <li>4 そのほか、相互の発展のために必要な事業の実施及び支援</li> </ol>	<p>【事業状況】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 春節前建国花市会場における「中海・宍道湖・大山圏域フェア」の開催(H24、25年度) 台北市において、圏域の物産・観光をPRするため、フェアを開催。建国花市へ中海・宍道湖・大山圏域PRブース出展。 ・H25年2月 圏域14事業者の商品販売 ・H26年1月 圏域15事業者の商品販売 ※松江市国際観光課と連携し、圏域観光PRブースを併設</li> <li>2 春節前建国花市会場における「圏域特産品物販企画」の開催(R2年度)</li> <li>3 春節前建国花市会場における「圏域観光PRブース出展及び特産品物販企画」の開催(R4年度)</li> <li>4 台北温泉祭での圏域PRブース設置(圏域観光局・皆生温泉) 春節前建国花市会場における圏域観光PRブース、ステージイベント及び特産品試食、文化交流イベントの開催</li> <li>5 中海・宍道湖・大山圏域台湾交流事業実行委員会の設立(R5年度)</li> <li>6 台湾人材の雇用(R6年度)</li> </ol>

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 空路就航があった場合、具体的に何ができるか、新しい取り組みを考えていくべきではないか。(R6年度)</li> <li>2 海外への戦略は限定した国をターゲットにせず多角的に戦略を練るべき必要があると思う。効果の有無、費用をどれくらいかけるかを今一度検討し、戦略を練っていかないといけない。圏域として、海外に進出する、海外から誘客する部分は重要なものと認識している。(R2意見)</li> </ol>	

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域企業の産業連携支援事業 圏域内企業情報データベースの充実、圏域内企業のビジネスマッチング

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の特色ある産業に対し、本事業による販路拡大、共同開発、技術支援、業務提携などを通じて、各事業の成長、維持を促進し、もって圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	ビジネスマッチング商談件数	438	345	下記	460
	ビジネスマッチングによる商談件数	■数値目標 R2～R6の累計3,400件(680件/年あたり) ■実績 R2～R6の累計1,843件(368.6件/年あたり) 達成率 54.2%				

事業内容	市長会より「中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会」に委託し、以下の事業を実施。 1 圏域内企業情報データベース事業 圏域内企業の産業連携や域外企業との新たな事業連携を促進するため「圏域ものづくりnet」の掲載企業情報を充実させ圏域内外への情報発信を強化する。 2 圏域内企業ビジネスマッチング事業 ビジネスマッチング(商談会・名刺交換会)を開催し、販路拡大、共同開発、技術支援、業務提携などを促進する。
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	1 圏域内企業情報データベース事業 ビジネスマッチング商談会エントリー企業に圏域ものづくりnetへの登録を商工会議所等を通じて促す。 ①登録企業数 724社 ②年間アクセス数 602,205件 2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施。 日程:10月19日(木) 会場:米子コンベンションセンター(米子市) ①参加企業数 179社 ②商談件数 438件	1 圏域内企業情報データベース事業 ビジネスマッチング商談会エントリー企業に圏域ものづくりnetへの登録を商工会議所等を通じて促す。 ①登録企業数 723社 ②年間アクセス数 658,894件 2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施。 日程:10月31日(木) 会場:安来市総合文化ホールアルテピア(安来市) ①参加企業数 157社 ②商談件数 345件	1 圏域内企業情報データベース事業 ビジネスマッチング商談会エントリー企業に圏域ものづくりnetへの登録を商工会議所等を通じて促す。 2 ビジネスマッチング商談展示会 対面式商談会を実施予定。 日程:10月23日(木) 会場:出雲だんだんとまとアリーナ(出雲市総合体育館)

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	6,372	11,550		10,252	11,550
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	6,372	11,550	10,252	11,550
	歳入合計	6,372	11,550		10,252

課題	地元受注企業のエントリーが減少傾向にあるため、「ものづくりnet」の広報機能を強化し、圏域内外に広く情報発信するとともに、マンネリ化を防ぐために参加意欲を高める新たな企画や勧誘活動に取組む必要がある。	方向性	1 山陰で最大規模の商談会に位置付けられており、事業効果も高いと考えられることから、随時、企業ニーズ等を柔軟に計画に反映させながら、事業継続していく。 2 食品分野においては、海外輸出を行う国内商社や台湾バイヤーを招聘するなど新たな販路開拓を支援する。
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外商による稼ぐ圏域の実現
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	圏域企業の産業連携の支援
	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
KPI	ビジネスマッチング商談件数	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月	ビジネスマッチングエントリー受付	通年	実行委員会の開催(事業計画・予算の審議)
	8月	エントリー締め切り	通年	幹事会・担当者会議の開催
	9月	マッチング調整	通年	圏域内企業情報データベースの充実
	10月	ビジネスマッチング商談会の開催(出雲市)		

本事業の経過及び関連する主要データ																																																																																																																					
<b>【本事業の経過】</b> H17年 「中海圏域産業技術展」を開催 実行委員会・・・中海周辺4市1町の行政、商工会議所、商工会で組織 H19年 中海市長会設立 H24年 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立 現組織構成の実行委員会が組織され「中海・宍道湖・大山圏域ビジネスマッチング商談会」を開催 H25年 事務局を松江市(まつえ産業支援センター)に固定化 <b>【主要データ】</b> 1 実行委員会 委員構成 各市商工会議所・商工会 工業部会長、各市産業担当部長 ※R6年度 実行委員長:安来商工会議所 鉄工業部会長 大場 信康 2 幹事会 委員構成 各市商工会議所・商工会 事務局長等、各市産業担当課長 3 事務局 H17～H22:開催地商工団体、H23:松江市、H24:米子商工会議所、H25以降:まつえ産業支援センター(ものづくり産業支援センター) 4 開催地 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H24</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米子</td><td>安来</td><td>境港</td><td>出雲</td><td>米子</td><td>松江</td><td>安来</td><td>平田</td><td>オンライン</td><td>オンライン</td><td>松江</td><td>米子</td><td>安来</td><td>出雲</td> </tr> </tbody> </table> 5 過去の実績 ・圏域ものづくりnet <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H27年度</th><th>H28年度</th><th>H29年度</th><th>H30年度</th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録企業数</td><td>468</td><td>516</td><td>542</td><td>568</td><td>579</td><td>601</td><td>695</td><td>707</td><td>724</td><td>733</td> </tr> <tr> <td>年間アクセス数</td><td>288,530</td><td>347,405</td><td>460,301</td><td>476,004</td><td>541,952</td><td>525,415</td><td>619,575</td><td>659,958</td><td>602,205</td><td>658,894</td> </tr> <tr> <td>月平均アクセス数</td><td>24,044</td><td>28,950</td><td>38,358</td><td>39,667</td><td>45,162</td><td>43,784</td><td>51,631</td><td>54,996</td><td>50,183</td><td>54,908</td> </tr> </tbody> </table> ・ビジネスマッチング <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H27年度</th><th>H28年度</th><th>H29年度</th><th>H30年度</th><th>R元年度</th><th>R2年度</th><th>R3年度</th><th>R4年度</th><th>R5年度</th><th>R6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加企業数</td><td>265</td><td>236</td><td>301</td><td>285</td><td>291</td><td>163</td><td>163</td><td>196</td><td>179</td><td>157</td> </tr> <tr> <td>商談件数</td><td>528</td><td>456</td><td>711</td><td>651</td><td>663</td><td>318</td><td>263</td><td>479</td><td>438</td><td>345</td> </tr> <tr> <td>成約件数</td><td></td><td></td><td></td><td>153</td><td>136</td><td>31</td><td>31</td><td>55</td><td>89</td><td>30</td> </tr> </tbody> </table> ※R2、R3:オンライン商談会 ※成約件数は、商談3ヶ月後の調査によるもの		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	米子	安来	境港	出雲	米子	松江	安来	平田	オンライン	オンライン	松江	米子	安来	出雲		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	登録企業数	468	516	542	568	579	601	695	707	724	733	年間アクセス数	288,530	347,405	460,301	476,004	541,952	525,415	619,575	659,958	602,205	658,894	月平均アクセス数	24,044	28,950	38,358	39,667	45,162	43,784	51,631	54,996	50,183	54,908		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	参加企業数	265	236	301	285	291	163	163	196	179	157	商談件数	528	456	711	651	663	318	263	479	438	345	成約件数				153	136	31	31	55	89	30
H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7																																																																																																								
米子	安来	境港	出雲	米子	松江	安来	平田	オンライン	オンライン	松江	米子	安来	出雲																																																																																																								
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																																																																																																											
登録企業数	468	516	542	568	579	601	695	707	724	733																																																																																																											
年間アクセス数	288,530	347,405	460,301	476,004	541,952	525,415	619,575	659,958	602,205	658,894																																																																																																											
月平均アクセス数	24,044	28,950	38,358	39,667	45,162	43,784	51,631	54,996	50,183	54,908																																																																																																											
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度																																																																																																											
参加企業数	265	236	301	285	291	163	163	196	179	157																																																																																																											
商談件数	528	456	711	651	663	318	263	479	438	345																																																																																																											
成約件数				153	136	31	31	55	89	30																																																																																																											

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
1	商談件数は出ているが、何件成立したのか定量的な結果がわかれば記載した方がよい。(R5年度)
2	商談件数は一つのベンチマークにはあるとは思いますが、より付加価値があるものというのは、そこで行くビジネスとして成立したのかということが、非常にいいものなのかなと思う。(H30意見)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域企業の産業連携支援事業 産学・医工連携事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域の自治体、事業者、国立大学医学部などで行われている産学・医工連携の取組を推進する。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
		医療機器等の実用化件数	0件	0件	-	-
目標(何を達成するのか)	人口・開発・出口の支援事業相談件数	125件	131件	-	-	
・医療機器等の実用化 ・支援事業相談件数 ・マッチング成立件数 について前年程度の実績を維持する	人口支援事業のマッチング成立件数	19件	3件	-	-	

事業内容	<p>1 圏域の自治体、事業者、病院、国立大学、高専の産官学で行われている医工連携の取り組みを一層前進させるため、支援体制を整備し、各種ニーズとシーズのマッチング機会の提供(入口支援)、研究への指導・助言等(開発支援)及び製品化された器具等の圏域内外への販路開拓(出口支援)等、各段階における支援事業を展開する。</p> <p>2 中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、中海・宍道湖・大山圏域市長会、国立大学、高専等で構成する「中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会」に委託し、事業実施する。</p>
------	--

事業の成果及び実績	R5実績	R6実績	R7計画
	<p>1 医療・福祉・介護機器開発支援(マッチング支援、開発支援、販路開拓支援、各種相談支援) 【新製品開発・実用化】 ・「ミューカス」の低価格化の検討支援 ・医療用放射線量データファイルシステム「ラドファイルX」の開発・製造支援 ・鼻腔拡張器「ハナタカ」の開発・製造支援 ・「マスクサポート」の販売支援 ・救急車用上肢台(着脱式)の開発・製造支援 2 ニーズ検討及び案件化 3 普及広報活動 4 アドバイザー等による事業推進・支援</p>	<p>1 医療・福祉・介護機器開発支援(マッチング支援、開発支援、販路開拓支援、各種相談支援) 【新製品開発・実用化】 ①「ミューカス」の低価格化の検討支援 ②医療用放射線量データファイルシステム「ラドファイルX」の開発・製造支援 ③鼻腔拡張器「ハナタカ」の開発・製造支援 ④救急車用上肢台(着脱式)の開発・製造支援 2 ニーズ検討及び案件化 3 普及広報活動 4 アドバイザー等による事業推進・支援</p>	<p>1 8月 協議会の解散決議 2 9月 現行事業の終了、財産処分 3 開発継続中案件の支援 ① 医療廃棄物容器電動開閉装置「ミューカス」の低価格化・販売拡大 ② 被ばく放射線量管理システム「ラドファイル-X」の開発・市場化 ③ 「救急車用ストレッチャー上肢台」製品化・販売開始 4 開発製品(6製品)のアフターケア・販売支援 5 「記録集・医工連携推進協議会10年の軌跡(仮称)」の発行、市長会HPへの掲載</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	10,928	9,570		9,563	2,000
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	10,928	9,570		9,563
歳入合計	10,928	9,570		9,563	2,000

課題	<p>圏域の医療・福祉機関等のニーズを受け、地域の高等教育機関等と連携しながら地元企業により6製品を開発する等、医療機器の開発という当初の構想に一定の役割を果たす一方で、事業マッチングをメインとする現行の方式では、その後の宣伝・周知・販売活動等までを一貫した戦略として立てることが困難であり、いずれの製品もビジネスとしての発展を見通すことが難しい状況となった。</p>	方向性	<p>1 令和7年度で設立準備時から10年度目を迎えるに当たり、現方式の圏域をベースとした医工連携事業を見直す。</p> <p>2 今後は、本事業で培った知見や繋がりを活かしつつ、各自治体において業界や企業の実情に応じた事業推進にシフトし、ビジネス化への支援を行う。</p>
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	力強い産業圏域の形成・地産外商による稼ぐ圏域の実現
	主な取組み	圏域企業の産業連携支援
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月	臨時総会(解散決議)		
	9月	事業廃止、財産処分		
	4月～	継続案件の支援等		

本事業の経過及び関連する主要データ	<p>【本事業の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年 5市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の広域連携施策として「産学・医工連携による圏域経済の活性化」を掲げる。</li> <li>・H28年5月 H28年度地方創生推進事業交付金企画として、米子市から医工連携事業(医工連携組織設置)について提案あり。</li> <li>・H28年12月 上記交付金交付決定(H28～R2年度)</li> <li>・H29年10月 中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会設立(設立発起人:中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山 ブロック経済協議会)</li> </ul>
-------------------	---

【中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会】

○中海・宍道湖・大山圏域市長会(5市産業振興担当部長、事務局長)、  
○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(会長、幹事長)、○島根県産業技術センター(副所長)、  
○(地独)鳥取県産業技術センター(理事)、○(公財)しまね産業振興財団(理事・事務局長)、  
○(公財)鳥取県産業振興機構(販路開拓支援部長)、○国立大学島根大学(理事・副学長)、  
○鳥取大学研究推進機構(研究戦略室 URAオフィス・設備サポート URA准教授)、  
○(独)国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校(環境・建設工学科教授)、  
○(独)国立高等専門学校機構 米子工業高等専門学校(医工連携研修センター長)  
※会長:米子商工会議所会頭(ブロック協会長)、副会長:中海・宍道湖・大山圏域市長会事務局長  
【事務局】  
R2年度まで:米子商工会議所、R3年度から:米子市経済戦略課

【事業状況】

○圏域内企業等の技術を活かした医療機器等の実用化  
1例目:「胃マクラ」(H29開発、H30販売開始。胃がん検診精度向上のためのクッション。合同会社放射線システム(大山町))  
2例目:「トラキアボックス」(R2開発、販売開始。医療従事者用飛沫感染防止ボックス。鳥大医学部附属病院他)  
3例目:「エマークイックプロ」(R2開発、販売開始。救急隊員用飛沫感染防止ボックス。鳥取県西部広域行政管理組合消防局他)  
4例目:「ピーケンサ」(R3開発、販売開始。歯周ポケット測定器。(株)バタカラ(東京)、(有)出雲樹脂(出雲)、社会福祉施設(松江))  
5例目:「マスクサポート」(R3販売支援 (株)ケイケイ(八頭町) 米子市役所内福祉の店おぞらでの販売等)  
6例目:「ミューカス(医療廃棄物容器用電動開閉装置)」(開発。(株)カノン、(有)ニシモト、(株)日本マイクロシステム。鳥取県済生会境港総合病院)(R4年度)

賛助会員数 86社(令和7年3月末)

- R2年度をもって交付金事業としての取組は終わるわけだが、頑張っている事業なので、今後も継続して取組を進めて欲しい。(R3意見)
- 圏域の高齢化が進んでおり、医療や福祉と製造業との連携がうまく進んでいけば良い。意義ある事業なので、今後も取り組むべきであるが、今一度戦略を練るべき。(R2意見)
- 例えば実用化件数がゼロとなっていますが、プラットホームそういった窓口ができたことの評価は大きなことであるし、圏域の人口当たりの医師数であったり、福祉関係の施設数からもこの圏域がやる意味はあると思います。単純に数値が0%だからと言って評価なしではなく、むしろ相談窓口ができたことは今後も含めて評価し継続すべきと思う。(R1意見)
- 医工連携事業について、圏域内での周知や医療機関へのニーズ調査が足りていないことが、マッチングが進まない要因の一つと考えられる。コロナ禍で医療機関に出向いていけない状況であれば、ことさら圏域内の周知を図っていただきたい。(R4意見)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	山陰いいものマルシェプロジェクト

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	山陰の中核地域である中海・宍道湖・大山圏域の官民が連携して山陰が誇る「いいもの」を再発掘し、JR西日本とタイアップして全国へ発信する。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	売上額、商談件数の増加					

事業内容	<p>1 山陰の質の高い農水産品や加工品、工芸品などを広くPRするとともに、圏域を中心に製品の消費拡大や生産振興、さらには圏域内外の生産者と消費者の交流を通じたビジネスマッチングの創出などを図る。          (「山陰いいものマルシェ」「JR西日本とのタイアップによる圏外発信」「ビジネスマッチングを促す研修会、交流会等の開催」)</p> <p>2 中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会、JR西日本、山陰中央新報社、日本貿易振興機構(ジェトロ)の5者で構成する「山陰いいものマルシェプロジェクト実行委員会」と実施に 関する協定を締結し、市長会が開催経費を負担して、事業実施する。</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 圏域内マルシェ開催及び商談会</p> <p>①マルシェ            とき:9月18日(月・祝)            会場:米子コンベンションセンター前(米子市)</p> <p>②商談会            とき:9月19日(火)            会場:米子市文化ホール            参加企業:19社 招致バイヤー:16社            商談件数:100件</p> <p>2 圏域外マルシェ開催、協力事業            「半島デリシャス」×「山陰いいものマルシェ」(11/23~26) 参加企業14社</p>	<p>1 圏域内マルシェ開催及び商談会</p> <p>①マルシェ            とき:11月24日(日)            会場:出雲だんだんとまとアリーナ(出雲市)            参加企業数:45店舗            来場者12,000人</p> <p>②商談会            とき:11月25日(月)            会場:ビックハート出雲            参加バイヤー:16社            参加企業数:18社            商談数:36商談</p>	<p>1 圏域内マルシェ開催及び商談会</p> <p>①マルシェ            とき:未定            会場:松江市内</p> <p>②商談会            とき:未定            会場:未定</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5		R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	7,500	7,500		7,500	7,500	実行委員会の予算財源は、市長会からの負担金及び出店者負担金
国・県支出金	0	0		0	0	
補助金	0	0		0	0	
特定負担金	0	0		0	0	
一般負担金	7,500	7,500		7,500	7,500	
歳入合計	7,500	7,500		7,500	7,500	

課題	<p>1 会場や気象条件によってはコロナ前まで来場者数・売上共に回復傾向にあるが、出展者や商品の固定化が課題である。</p> <p>2 令和7年度で5市持ち回りの2巡目が終了することから、今後のあり方・方向性を検討する必要がある。</p>	方向性	<p>1 圏域内マルシェ(地元開催イベント)については、R2年度からR7年度までの5市2巡目が終了することから、令和8年度に向けて当初目的である「地産外販」に資する手法を実行委員会で検討する。</p> <p>2 越境ECサイトでの個人輸出や、大阪・関西万博の波及効果で誕生した出展会場などでのPRなど、国内外での販路拡大に取り組む。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	活力にあふれる圏域づくり
	基本目標	・力強い産業圏域の形成 ・地産外販による稼ぐ圏域の実現
	主な取組み	圏域内の製造業の集積を活かした産業振興と広域的な産業間連携
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	9月	実行委員会		
		※担当者会、5者協議、幹事会を経て		
		マルシェ開催		

本事業の経過及び関連する主要データ

**【本事業の経過】**  
 山陰いいものマルシェプロジェクト実行委員会 H27年4月3日設立

**【実行委員会 構成】**  
 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会(各市長)、○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(各商工会議所・商工会会頭)、  
 ○西日本旅客鉄道(株)米子支社長、山陰地域振興本部 課長)、  
 ○(株)山陰中央新報社(代表取締役社長、営業局担当局長兼地域振興部長)、  
 ○日本貿易振興機構(ジェトロ)松江・鳥取貿易情報センター(各センター所長)

**【幹事会 構成】**  
 ○中海・宍道湖・大山圏域市長会(各市産業振興担当課長)、  
 ○中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会(各商工会議所・商工会課長)、○JR西日本(山陰地域振興本部 課長)、  
 ○ジェトロ島根・鳥取(各センター所長)、○山陰中央新報社(営業局担当局長兼地域振興部長)

**【事務局】**  
 松江商工会議所

**【開催状況】**

年度	1巡目					2巡目						
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
開催市	松江(6月)、境港(12月)	安来(9月)、出雲(3月)	米子(9月)	松江(3月)	松江(3月)	境港(3月)	境港(3月)	安来(12月)	米子(9月)	出雲(11月)	松江	
市長会事業費	25,000,000	22,000,000	9,800,000	9,800,000	2,748,410	509,487	2,754,524	7,500,000	7,500,000	7,500,000	7,500,000	
うち交付金対象事業費	22,000,000	22,000,000	4,700,000	-	-	-	-	-	-	-	-	
補助率	10/10	10/10	1/2	-	-	-	-	-	-	-	-	
交付金名称	地方創生先行型交付金	地方創生加速化交付金	地方創生推進交付金	-	-	-	-	-	-	-	-	
うち松江市追加負担費	-	-	-	5,000,000	1,832,273	-	-	-	-	-	-	
ブロック協	500,000	250,000	150,000	150,000	0	-	-	-	-	-	-	
雑収入	710,247	1,035,083	606,378	901,513	228,182	7	0	0	0	0	0	
前期からの繰越金	0	38,155	211,791	41,199	544,078	544,078	0	0	0	0	0	
決算額(合計)	26,210,247	23,323,238	10,768,169	10,892,712	3,520,670	1,053,572	2,754,524	7,500,000	7,500,000	7,500,000	7,500,000	
出店事業者数	〔松江〕53(うち圏域39) 〔境港〕72(うち圏域61)	〔安来〕58(うち圏域50) 〔出雲〕76(うち圏域60)	83 (圏域74)	42 (圏域33)	中止	中止	中止	30 (圏域26)	41 (圏域36)	45 (圏域39)		
来場者数	30,000人(松江2日間) 15,000人(境港)	13,000人(安来) 20,000人(出雲)	23,000人	24,000人	中止	中止	中止	600人 (途中中止)	2,000人 (途中中止)	12,000人		
売上額	5,993千円(松江2日間) 5,102千円(境港)	4,647千円(安来) 6,255千円(出雲)	4,627千円	4,707千円	中止	中止	中止	897千円 (途中中止)	1,749千円 (途中中止)	4,084千円		
マルシェ会場への来場バイヤー社数	13社〔松江〕 9社〔境港〕	4社〔安来〕 14社〔出雲〕	5社	8社	中止	中止	-	-	8社	8社		
〔マッチング商談会〕 高談件数 招致バイヤー社数	開催なし	開催なし〔安来〕 76件、4社〔出雲〕	60件、6社	90件、8社	中止	中止	86件、9社	37件、6社	100件、16社	36件、8社		
〔マッチング商談会〕 参加事業者数	開催なし	開催なし〔安来〕 28(うち圏域19)〔出雲〕	18 (圏域14)	25 (圏域18)	中止	中止	30 (圏域20)	11 (圏域8)	19 (圏域11)	18 (圏域15)		

総合戦略推進委員会での評価及び意見

1 費用対効果の問題はどうか。経済効果がそこそこあれば、やってもいいのかと思うが。元々あるものを活性化させていく、磨いていくことが意外と相乗効果が高いのではないと思う。マルシェが本当にいいものなのか、一般人がどんどん行けるような企画を実行してもらって、ネーミングに英語やフランス語を入れるのはそろそろ止めて日本語でやってもいいのかと思う。(H30意見)

2 H29は米子市で開催した。JRさんが絡んでおられるので、米子駅前という議論もあったが、当時の米子は高島屋・角盤町周辺のにぎわいというのが課題だったため角盤町周辺で開催した。そうしたら、思いのほか大勢の来場者にびっくりした。米子場合は単に売り上げとか商談件数にプラスの積極評価では、やはり高島屋周辺は商売を楽しむ所だという定着があるということを再認識できたという点で、会議所、高島屋周辺の商店街、米子市も評価をしているのではないと思う。それが基で今後高島屋周辺をにぎわいの拠点空間としてやっていく自信、見込みが付いたということが一番の評価だったと思う。(H30意見)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	外国人誘客対策事業 クルーズ客船寄港時のおもてなし

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	クルーズ船旅客者の満足度を高め、外国人観光客の圏域周遊促進と旅行消費を拡大し、圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
	クルーズ船寄港数	27	33	33	45	
事業の目的と目標	目標(何を達成するのか)					
	クルーズ船寄港数、外国人観光客数の増					

事業内容	<p>1 クルーズ船旅客者、クルーに対する観光案内業務・交流イベントの実施 民間事業者へ委託し実施する 境夢みなどターミナル等でクルーズ船寄港にあわせ、観光案内と交流イベント(伝統芸能披露や日本文化体験等)を実施する。</p> <p>2 外国語観光案内業務ができる通訳ボランティアの募集・育成を図る。 登録者数60名、対応可能言語・・・英語、韓国語、中国語、その他</p>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 27回 観光案内業務 27回 交流イベント 27回</p>	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 33回 観光案内業務 33回 交流イベント 33回</p>	<p>1 観光案内業務・交流イベントの実施 クルーズ船寄港数 45回 観光案内業務 45回 交流イベント 45回</p>
	<p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施</p>	<p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施</p>	<p>2 観光案内通訳ボランティアの募集・運営 圏域観光協会会議に委託し実施</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後 決算	予算	
事業費	3,810	5,586	4,946	4,618	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	観光局自主財源	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	市長会負担金	3,810	5,586	4,946	4,618
歳入合計	3,810	5,586	4,946	4,618	

課題	寄港数は回復傾向にあり、それに伴うオプションツアー等により圏域内での消費がもたらされているものの、その波及効果は限定的である。	方向性	寄港数が回復傾向にあることを鑑み、観光案内業務・交流イベントが寄港満足度向上に寄与していると捉えているが、圏域周遊促進・消費拡大を主目的と考えるうえでは、現行の交流イベントは効果として直結しないため、既存事業の縮小・廃止および圏域周遊促進・消費拡大につながる新規事業を検討する。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	インバウンド観光の推進
	主な取組み	外国人誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	クルーズ船寄港数

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	随時	観光案内、交流イベントの実施		

本事業の経過及び関連する主要データ																																																																																																																																																	
<p>【本事業の経過】</p> <p>H24年 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立 クルーズシンポジウムin境港 境港管理組合と共催</p> <p>H25年 「クルーズ客船おもてなし事業」を開始 以後、現在観光局に引き継がれ継続実施</p> <p>R2年 境夢みなどターミナル供用開始</p> <p>R4年 国際クルーズ受入再開(11月 国交省)</p>	<p>【主要データ】</p> <p>○クルーズ客船乗客数、寄港数の推移</p> <table border="1"> <caption>クルーズ客船乗客数、寄港数の推移 (単位:千人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>乗客数(千人)</th> <th>寄港数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H23</td><td>1.1</td><td>4</td></tr> <tr><td>H24</td><td>8.5</td><td>16</td></tr> <tr><td>H25</td><td>10.9</td><td>17</td></tr> <tr><td>H26</td><td>14.1</td><td>11</td></tr> <tr><td>H27</td><td>19.4</td><td>23</td></tr> <tr><td>H28</td><td>39.6</td><td>33</td></tr> <tr><td>H29</td><td>66.5</td><td>61</td></tr> <tr><td>H30</td><td>61.2</td><td>37</td></tr> <tr><td>R1</td><td>63.9</td><td>53</td></tr> <tr><td>R2</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>1.2</td><td>2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>3.1</td><td>6</td></tr> <tr><td>R5</td><td>31</td><td>27</td></tr> <tr><td>R6</td><td>32.3</td><td>33</td></tr> </tbody> </table>	年度	乗客数(千人)	寄港数	H23	1.1	4	H24	8.5	16	H25	10.9	17	H26	14.1	11	H27	19.4	23	H28	39.6	33	H29	66.5	61	H30	61.2	37	R1	63.9	53	R2	0.0	0.0	R3	1.2	2	R4	3.1	6	R5	31	27	R6	32.3	33																																																																																																			
年度	乗客数(千人)	寄港数																																																																																																																																															
H23	1.1	4																																																																																																																																															
H24	8.5	16																																																																																																																																															
H25	10.9	17																																																																																																																																															
H26	14.1	11																																																																																																																																															
H27	19.4	23																																																																																																																																															
H28	39.6	33																																																																																																																																															
H29	66.5	61																																																																																																																																															
H30	61.2	37																																																																																																																																															
R1	63.9	53																																																																																																																																															
R2	0.0	0.0																																																																																																																																															
R3	1.2	2																																																																																																																																															
R4	3.1	6																																																																																																																																															
R5	31	27																																																																																																																																															
R6	32.3	33																																																																																																																																															
○令和6年度寄港実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>寄港日</th> <th>船名</th> <th>乗客数(人)</th> <th>乗客の主な国籍</th> <th>寄港日</th> <th>船名</th> <th>乗客数(人)</th> <th>乗客の主な国籍</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月1日</td><td>シーボーン・ソジャー</td><td>458</td><td>欧米</td><td>6月3日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>日本/欧米</td></tr> <tr><td>4月4日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>欧米</td><td>6月13日</td><td>ハンセアティック・スピリット</td><td>230</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>4月6日</td><td>ウェステルダム</td><td>1,964</td><td>欧米</td><td>6月14日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>4月9日</td><td>アザマラ・ジャーニー</td><td>690</td><td>欧米</td><td>7月6日</td><td>ダイヤモンド・プリンセス</td><td>2706</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>4月12日</td><td>ダイヤモンド・プリンセス</td><td>2,706</td><td>欧米</td><td>8月9日</td><td>ダイヤモンド・プリンセス</td><td>2706</td><td>日本/欧米</td></tr> <tr><td>4月23日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>日本/欧米</td><td>9月2日</td><td>飛鳥II</td><td>872</td><td>日本/欧米</td></tr> <tr><td>4月26日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>欧米</td><td>9月13日</td><td>ナショナルジオグラフィック・レゾリューション</td><td>126</td><td>日本</td></tr> <tr><td>5月1日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>欧米</td><td>9月17日</td><td>ナショナルジオグラフィック・レゾリューション</td><td>126</td><td>日本</td></tr> <tr><td>5月4日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>欧米</td><td>9月18日</td><td>コスタ・セレーナ</td><td>2930</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月6日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>欧米</td><td>9月20日</td><td>にっぽん丸</td><td>400</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月14日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>欧米</td><td>9月25日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>韓国</td></tr> <tr><td>5月15日</td><td>コスタ・セレーナ</td><td>2930</td><td>欧米</td><td>9月28日</td><td>ウェステルダム</td><td>1964</td><td>日本</td></tr> <tr><td>5月20日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>韓国</td><td>10月21日</td><td>ノールダム</td><td>1924</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月20日</td><td>ヘリテージ・アドベンチャー</td><td>140</td><td>欧米</td><td>2月10日</td><td>にっぽん丸</td><td>400</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月20日</td><td>ダイヤモンド・プリンセス</td><td>2706</td><td>欧米</td><td>3月25日</td><td>ル・ジャック・カルティエ</td><td>184</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月22日</td><td>ル・ソレアル</td><td>264</td><td>日本/欧米</td><td>3月28日</td><td>アザマラ・バシュート</td><td>655</td><td>欧米</td></tr> <tr><td>5月30日</td><td>ダイヤモンド・プリンセス</td><td>2706</td><td>欧米</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍	寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍	4月1日	シーボーン・ソジャー	458	欧米	6月3日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	日本/欧米	4月4日	ル・ソレアル	264	欧米	6月13日	ハンセアティック・スピリット	230	欧米	4月6日	ウェステルダム	1,964	欧米	6月14日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	4月9日	アザマラ・ジャーニー	690	欧米	7月6日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米	4月12日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	欧米	8月9日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	日本/欧米	4月23日	ル・ソレアル	264	日本/欧米	9月2日	飛鳥II	872	日本/欧米	4月26日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月13日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	日本	5月1日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月17日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	日本	5月4日	ル・ソレアル	264	欧米	9月18日	コスタ・セレーナ	2930	欧米	5月6日	ル・ソレアル	264	欧米	9月20日	にっぽん丸	400	欧米	5月14日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月25日	ル・ソレアル	264	韓国	5月15日	コスタ・セレーナ	2930	欧米	9月28日	ウェステルダム	1964	日本	5月20日	ル・ソレアル	264	韓国	10月21日	ノールダム	1924	欧米	5月20日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	2月10日	にっぽん丸	400	欧米	5月20日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米	3月25日	ル・ジャック・カルティエ	184	欧米	5月22日	ル・ソレアル	264	日本/欧米	3月28日	アザマラ・バシュート	655	欧米	5月30日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米				
寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍	寄港日	船名	乗客数(人)	乗客の主な国籍																																																																																																																																										
4月1日	シーボーン・ソジャー	458	欧米	6月3日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	日本/欧米																																																																																																																																										
4月4日	ル・ソレアル	264	欧米	6月13日	ハンセアティック・スピリット	230	欧米																																																																																																																																										
4月6日	ウェステルダム	1,964	欧米	6月14日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米																																																																																																																																										
4月9日	アザマラ・ジャーニー	690	欧米	7月6日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米																																																																																																																																										
4月12日	ダイヤモンド・プリンセス	2,706	欧米	8月9日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	日本/欧米																																																																																																																																										
4月23日	ル・ソレアル	264	日本/欧米	9月2日	飛鳥II	872	日本/欧米																																																																																																																																										
4月26日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月13日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	日本																																																																																																																																										
5月1日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月17日	ナショナルジオグラフィック・レゾリューション	126	日本																																																																																																																																										
5月4日	ル・ソレアル	264	欧米	9月18日	コスタ・セレーナ	2930	欧米																																																																																																																																										
5月6日	ル・ソレアル	264	欧米	9月20日	にっぽん丸	400	欧米																																																																																																																																										
5月14日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	9月25日	ル・ソレアル	264	韓国																																																																																																																																										
5月15日	コスタ・セレーナ	2930	欧米	9月28日	ウェステルダム	1964	日本																																																																																																																																										
5月20日	ル・ソレアル	264	韓国	10月21日	ノールダム	1924	欧米																																																																																																																																										
5月20日	ヘリテージ・アドベンチャー	140	欧米	2月10日	にっぽん丸	400	欧米																																																																																																																																										
5月20日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米	3月25日	ル・ジャック・カルティエ	184	欧米																																																																																																																																										
5月22日	ル・ソレアル	264	日本/欧米	3月28日	アザマラ・バシュート	655	欧米																																																																																																																																										
5月30日	ダイヤモンド・プリンセス	2706	欧米																																																																																																																																														
総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>【意見】</p> <p>1 クルーズ船の乗客は、観光地へのバス・タクシーを手配する必要があるが、運転手が減ってしまっている状況。バス・タクシー以外の交通手段はあるのか。(R5年度)</p> <p>2 外国からのクルーズ船事業について、数千人規模の大型船のほか、富裕層が世界を周遊する小型クルーズ船の誘致も境港管理組合と連携して検討してもよい。(R4年度)</p>																																																																																																																																																

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	01外国人誘客対策事業 圏域インバウンドプロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	国内旅行市場に大きな成長が見られない中、訪日外国人旅行者誘致を強化し、圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
		圏域外国人宿泊数(人)	71,076	101,304	459,000	450,000
	目標(何を達成するのか)	観光消費額(億円)	846	874	1,160	1,182
	訪日外国人宿泊数、観光消費額の増					

事業内容	<p>圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし重点ターゲット国を定め、JNTO、山陰インバウンド機構と役割分担し個別に有効なプロモーションを実施していく。 (重点ターゲット国:韓国、台湾、香港、中国、欧米豪「圏域インバウンド総合計画」「圏域インバウンド実施計画」)</p> <p>1 欧米豪他・・・JNTOを活用したプロモーション事業、WEB、SNSを活用した情報発信 2 上海・香港・・・商談会等の現地プロモーション事業、現地メディアでの情報発信 3 その他・・・観光体験コンテンツを活用したプロモーション、英語版ホームページ、訪日旅行サイトによる情報発信</p>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 プロモーション事業 ・英語版ホームページの充実 ・訪日旅行サイトによる情報発信</p> <p>2 東アジア向けプロモーション ・上海または香港現地商談会(観光庁補助) →中止 ・縁結びをテーマにした上海または香港向け体験コンテンツの作成(観光庁補助)</p> <p>3 WEB等を活用した情報発信 ・SNS(Facebook,Instagram)情報発信 ・wechatを活用した情報発信</p>	<p>プロモーション事業 1 欧米豪向けプロモーション ・JNTO賛助金 ・SNS(Facebook,Instagram)運用委託 ・山陰まんなかの自然・歴史を活用したアドベンチャー・ツーリズム造成・流通環境整備事業(観光庁補助)</p> <p>2 東アジア向けプロモーション ・訪日外国人向けサイト等メディアを活用した情報発信 ・海外旅行会社への誘客アプローチ(FAMツアー等) ・【韓国】韓国現地商談会(観光庁補助) ・【台湾】一畑グループ台湾事務所による現地情報発信</p>	<p>プロモーション事業 1 欧米豪向けプロモーション ・英語版SNSによる情報発信 ・アドベンチャー・ツーリズム造成・流通環境整備事業</p> <p>2 韓国向け ・旅行会社への誘客アプローチ ・オフ期テレビショッピング補助</p> <p>3 台湾向け ・台北/高雄へのセールスコール</p> <p>4 中国・香港向け ・中国人KOLを活用した情報発信</p> <p>5 東アジア全般 ・アジア地区現地商談会(観光庁補助)</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考	
	決算	当初予算	補正・流用後	決算		予算
事業費	22,019	24,970	25,970	24,056	16,730	
財源内訳	国・県支出金	5,000	7,950	7,950	7,950	R7観光庁補助 ・アジア地区現地商談会
	観光局自主財源	696	3,100	4,100	0	
	特定負担金	0	0	0	0	
	市長会負担金	16,323	13,920	13,920	16,106	
歳入合計	22,019	24,970	25,970	24,056	16,730	

課題	<p>1 欧米豪については、依然として認知度が低い状況にある。</p> <p>2 東アジア圏については、米子空港直航便の回復・本数増加に伴い、誘客が好調ではあるが、政局や情勢などの影響により、安定性・持続性は危うさを残している。</p>	方向性	<p>1 欧米豪については、ターゲットを絞って、確実に来訪者数を伸ばしていく取組を実施する。</p> <p>2 航空路線が復活してきている東アジア圏に向けて、誘客を促進する取組を実施していく。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	インバウンド観光の推進
	主な取組み	外国人誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	訪日外国人宿泊数

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	年間	英語版SNSによる情報発信	12月	アジア地区現地商談会(上海)
	9月～3月	アドベンチャー・ツーリズム造成・流通環境整備事業		
	10月～12月	旅行会社への誘客アプローチ		
	1月～3月	オフ期テレビショッピング補助		

本事業の経過及び関連する主要データ																			
<p>【本事業の経過】</p> <p>平成24年4月 中海・宍道湖・大山圏域市長会設立 (圏域からの国際路線の状況)</p> <p>平成26年2月 圏域市長会・ブロック経済協合同研修会 「県域におけるインバウンド強化について提言」</p> <p>平成26年6月 インバウンド検討委員会の設立(以後7回開催)</p> <p>平成27年2月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド総合計画策定</p> <p>平成28年4月 山陰インバウンド機構設立</p> <p>平成28年6月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド実施計画策定</p> <p>平成28年8月 圏域DMO設立について合意(圏域市長会・ブロック協)</p> <p>平成29年7月 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構設立</p> <p>平成31年4月 (一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局設立(法人化)</p> <p>令和元年8月 日本版DMO登録(地域連携DMO)</p> <p>令和4年9月 日本版DMO登録更新(地域連携DMO)</p>	<p>(圏域からの国際路線の状況)</p> <p>平成13年 米子ーソウル定期便就航</p> <p>平成21年 DBSフェリー就航</p> <p>平成28年 米子ー香港定期便就航</p> <p>令和元年 米子ーソウル定期便運休</p> <p>令和2年 米子ー上海定期便就航(1月) 新型コロナウイルス感染症の影響で 香港便、上海便運休(2月)</p> <p>DBSフェリー航路廃止(4月)</p> <p>令和5年 米子ーソウル定期便再開(10月)</p> <p>令和6年 イースタン・ドリーム号就航(8月) 米子ー香港定期便再開(10月)</p> <p>令和7年 米子ー台湾定期便再開(5月) 米子ー香港定期便運休(9月)</p>																		
<p>【主要データ】</p> <p>圏域内インバウンドの状況 (単位:人)</p>	<p>参考R7</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>圏域内宿泊者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>6,094</td></tr> <tr><td>2月</td><td>6,255</td></tr> <tr><td>3月</td><td>9,482</td></tr> <tr><td>4月</td><td>12,197</td></tr> <tr><td>5月</td><td>11,903</td></tr> <tr><td>6月</td><td>5,979</td></tr> <tr><td>7月</td><td>8,190</td></tr> <tr><td>合計</td><td>60,100</td></tr> </tbody> </table> <p>※出展:観光予報プラットフォーム</p>	月	圏域内宿泊者数	1月	6,094	2月	6,255	3月	9,482	4月	12,197	5月	11,903	6月	5,979	7月	8,190	合計	60,100
月	圏域内宿泊者数																		
1月	6,094																		
2月	6,255																		
3月	9,482																		
4月	12,197																		
5月	11,903																		
6月	5,979																		
7月	8,190																		
合計	60,100																		

総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>1 海外向けプロモーション、誘客促進は、国際線の状況が今年度大きく変わるとされる。それを加味した、有効に使うような方向性をだすべき。(R6年度)</p> <p>2 中国で情報発信をする場合はWeChatを使用する必要がある。いろいろな情報統制があるので、それぞれの国に合わせた手段を駆使しなければならない。(R5年度)</p>
-------------------	--

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・穴道湖・大山圏域観光局	02国内誘客対策事業 国内広域観光プロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし、国内に広域的に情報発信し圏域への誘客を促進し圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	3,335	3,426	4,330	4,380
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	846	874	1,160	1,182

事業内容	<p>国内旅行市場も回復してきており、圏域への訪問も増えていることから、広域的に多様な情報を発信して誘客を促進し、圏域への経済効果を高める。</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション</p> <p>※新型コロナウイルスの感染状況、海外情勢、観光需要の動向を見据えて弾力的な事業展開を図る。</p>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション ・日本語版ホームページの管理・運営 -公式アンバサダーによるブログ更新及びセレクトリップへのスポット追加と、各SNSでの情報発信 ・X(Twitter)を活用したキャンペーン</p>	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 WEB、SNSを活用したプロモーション ・日本語版ホームページの管理・運用 -公式アンバサダーによるブログ更新及びセレクトリップへのスポット追加と、各SNSでの情報発信</p>	<p>【国内広域観光プロモーション】</p> <p>1 山陰まんなか情報発信 ・圏域の観光資源を伝える動画作成及び情報発信</p> <p>2 WEB、SNSを活用したプロモーション ・日本語版ホームページの管理・運用 -公式アンバサダーによるブログ更新及びセレクトリップへのスポット追加と、各SNSでの情報発信</p>

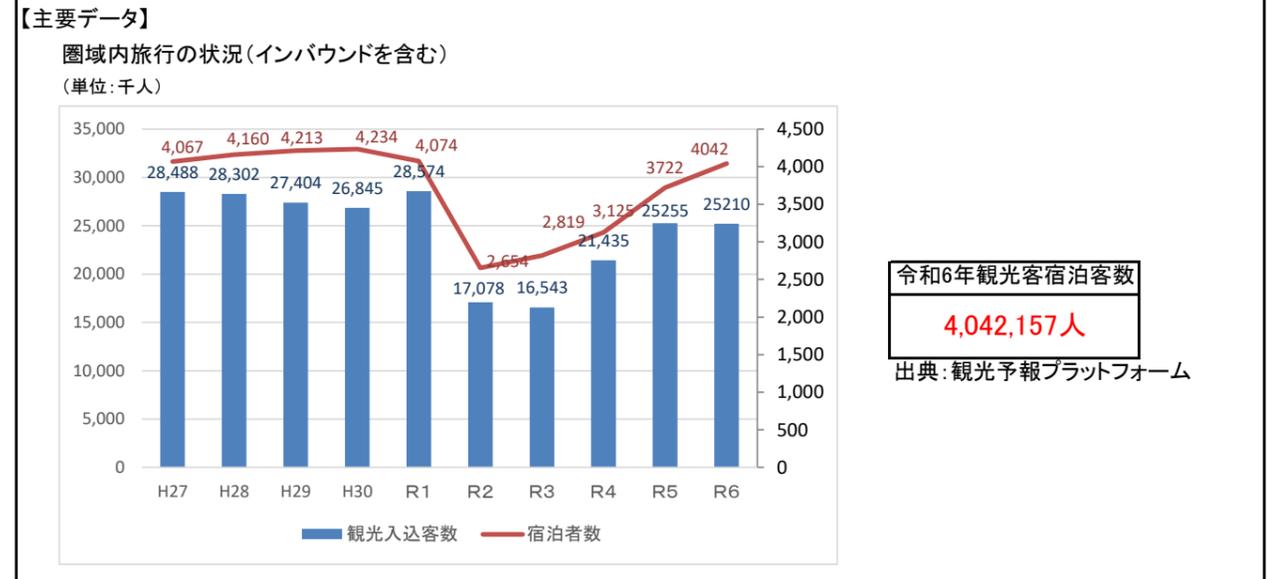
歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5		R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	3,002	3,511		2,500	10,546	
財源内訳	国・県支出金	0	0		0	
	観光局自主財源	0	0		0	
	特定負担金	0	0		0	
	市長会負担金	3,002	3,511		0	10,546
歳入合計	3,002	3,511		2,500	10,546	

課題	国内旅行は、コロナ以前のレベル近づいてはいるものの、全国的にみるとゆるやかな回復傾向といえる。一部スポットだけへの来訪や、それによるオーバーツーリズムが発生しないよう、圏域周遊促進のための情報発信を行うほか、旅行消費拡大の取り組みが必要。	方向性	圏域内周遊を促進する情報発信をしていくほか、消費拡大を狙う物産PRを重点的に実施していく。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	年間	日本語版ホームページの管理・運用		
	7月～3月	動画制作及び発信業務		

本事業の経過及び関連する主要データ			
【本事業の経過】(近年の観光に係る事業等の変遷)			
平成25年 出雲大社大遷宮		令和3年 FDA神戸線運休	
平成25年 松江自動車道全線開通		令和5年 FDA静岡線、仙台線運休予定(1月)	
平成27年 FDA名古屋線運航開始		令和6年 FDA名古屋線運行開始、静岡線再開(3月)	
平成27年 松江城国宝指定		令和6年 水木しげる記念館リニューアルオープン(4月)	
平成28年 FDA名古屋線一日2便に増便			
平成30年 FDA静岡空港線、仙台空港線運航開始			
平成30年 山陰デスティネーションキャンペーン			
平成30年 大山開山1300年			
平成30年 不昧公没後200年祭			
平成30年 水木しげるロードリニューアルオープン			
令和元年 FDA神戸線運航開始			



総合戦略推進委員会での評価及び意見	
【評価】	
【意見】	・観光事業に大きな力を割いている。インバウンドの見通しは立たないが、国内は人が動き始めている。コロナ禍の中で対策を講じつつ、具体的なものを積み上げて、何か動きを作っていかなければならない。(R4年度)

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・穴道湖・大山圏域観光局	02国内誘客対策事業 人口集積地(発地型)誘客プロモーション事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域全体を一体的に発信していく利点をいかし、人口集積地である都市部に対しプロモーションを実施し、誘客を促進し圏域経済の活性化を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
		圏域宿泊客数(千人)	3,335	3,426	4,330	4,380
	目標(何を達成するのか)	観光消費額(億円)	846	874	1,160	1,182
国内旅行宿泊数、観光消費額の増						

事業内容	<p>人口集中地域である大都市部をターゲットとし、圏域の魅力や観光資源を積極的に情報発信し、圏域の認知度向上、観光誘客を図る。</p> <p>1 圏域への基幹交通機関と連携した事業 (JR、航空路線) 2 ラジオを活用した情報発信</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】</p> <p>1 基幹交通機関と連携した事業 ・JR西と連携した事業 ・航空機と連携した事業 出雲空港、米子空港と連携(冬季対策補助)</p> <p>2 WEB以外を活用したプロモーション ・ラジオ番組を活用した情報発信 ・サービスエリアや雑誌媒体等を活用した情報発信</p> <p>3 足立美術館展を起点とした北海道プロモーション</p>	<p>【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】</p> <p>1 基幹交通機関と連携した事業 ・圏域発着航空便の利用促進事業 FDA路線と連携した旅行商談会(教育・一般団体旅行誘致) 出雲空港、米子空港と連携(冬季対策補助)</p> <p>2 ラジオ番組を活用した情報発信 ・中四国ライブネットでの圏域PR</p>	<p>【人口集積地(発地型)誘客プロモーション】</p> <p>1 FDAで結ぶ山陰と静岡 ・Instagramハッシュタグキャンペーン</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	6,755	5,401		4,541	2,000
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	観光局自主財源	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	市長会負担金	6,755	5,401	4,541	2,000
歳入合計	6,755	5,401	4,541	2,000	

課題	<p>コロナ禍が明け、国内旅行は徐々に回復しているものの、旅行熱の高まりが落ち着いた後の来訪者数の維持・向上に不安を抱えている。 人口集積地での効率的な情報発信と、安定した観光客数の確保に向けた取組が必要。</p>	方向性	<p>人口集積地での効率的な情報発信を実施するほか、閑散期の教育・一般の団体旅行誘致など、コロナ禍明けの旅行需要が下火になった際にも、安定した観光客数の確保に向けた取組を実施する。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	7月～10月	FDAと連携しハッシュタグキャンペーン		
	12月～3月	出雲縁結び空港及び米子鬼太郎空港冬季利用促進事業		

本事業の経過及び関連する主要データ

【本事業の経過】(近年の観光に係る事業等の変遷)

- 平成25年 出雲大社大遷宮
- 平成25年 松江自動車道全線開通
- 平成27年 FDA名古屋線運航開始
- 平成27年 松江城国宝指定
- 平成28年 FDA名古屋線一日2便に増便
- 平成30年 FDA静岡空港線、仙台空港線運航開始(令和5年運休予定)
- 平成30年 山陰デスティネーションキャンペーン
- 平成30年 大山開山1300年
- 平成30年 不昧公没後200年祭
- 平成30年 水木しげるロードリニューアルオープン
- 令和元年 FDA神戸線運航開始(令和3年運休)
- 令和5年 FDA静岡線、仙台線運休(1月)
- 令和6年 FDA名古屋線一日3便に増便、静岡線再開(3月)

宿泊実績居住地トップ10 (R5.1～R6.12)

順位	都道府県	人数(人)
1位	東京都	535,250
2位	大阪府	414,305
3位	広島県	358,167
4位	神奈川県	306,641
5位	兵庫県	284,999
6位	埼玉県	254,474
7位	愛知県	219,819
8位	岡山県	203,273
9位	千葉県	184,795
10位	島根県	137,255

旅行の参加形態

出典: 観光予報プラットフォーム

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
-------------------	--

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局	02圏域観光の魅力アップ事業 圏域内周遊促進及び受入環境充実事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の周遊性を高めるとともに観光客受入体制の充実をはかり観光消費額の増加を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
	目標(何を達成するのか)	圏域宿泊客数(千人)	3,335	3,426	4,330	4,380
	国内旅行宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	846	874	1,160	1,182

事業内容	<p>地域連携DMOの役割である「稼げる圏域づくり」をめざし、圏域観光の魅力充実させ、国内外から圏域へ来訪する観光客の受け入れの充実を図るなど、リピーターの確保に繋がる取組を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客受入環境整備の実施</li> <li>各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成等</li> <li>周遊促進キャンペーンの実施</li> <li>観光関連データを活用した周遊観光促進</li> </ol>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<ol style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客受入環境整備 ・コンシェルジュ育成 ・消費拡大に向けたアンケート調査</li> <li>各種事業との連携及びノベルティ・パンフレット作成等</li> <li>長期滞在型旅行商品造成事業(観光庁補助) 圏域での宿泊、滞在日数の増加を目的とした商品造成</li> <li>過年度事業項目の磨き上げ、販売促進</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成等 ・美保基地航空祭等イベント時の出展 ・パンフレット更新</li> <li>周遊促進キャンペーンの実施 ・うんぱく三城やレンタカーの活用</li> <li>観光関連データを活用した周遊観光促進 ・観光予約プラットフォームの活用 ・観光現場におけるICTサービス等利活用促進事業</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客受入環境整備 ・事業者向けインバウンドセミナー</li> <li>各種イベント時の広告宣伝及びノベルティ・パンフレット作成等 ・多言語版パンフレット作成</li> <li>観光関連データの活用 ・観光予約プラットフォームの活用 ・圏域内センサーデータの活用</li> </ol>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	15,358	8,812	9,812	8,187	4,284
財源内訳	国・県支出金	3,600	0	0	0
	観光局自主財源	1,368	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	市長会負担金	10,390	8,812	9,812	8,187
歳入合計	15,358	8,812	9,812	8,187	4,284

課題	インバウンドはすでにコロナ以前より増加しており、事業者と連携して受入環境整備を実施していく必要がある。 また、圏域内外へのPRの機会を活用していく必要があるほか、観光データの活用にも力を入れていく必要がある。	方向性	インバウンド向けの受入環境整備を実施するほか、イベントの活用や観光データを活用した取組を実施する。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	圏域観光の魅力アップ
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内及びインバウンド観光の推進
	KPI	観光宿泊数

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	5月	圏域内イベント参加(美保基地航空祭)		
	9月	事業者向けインバウンドセミナー		
	随時	多言語版パンフレット作成		
	年間	観光関連データの活用		

本事業の経過及び関連する主要データ

【本事業の経過】

- 長期滞在型旅行商品造成事業 ※観光庁補助  
令和5年度  
4泊5日の日程で圏域を「第2のふるさと」として感じてもらえるよう、地元の人を絡めた旅行商品の造成・販売
- 日本人向け旅行商品 5件(国内旅行者により販売中)
- 外国人向け旅行商品 2件(国内旅行者により販売中)

○居住地別宿泊日数(R6.1~R6.12)

居住国	宿泊日数			合計
	1泊	2泊	3泊以上	
韓国	14,754	5,016	954	20,724
台湾	12,027	5,984	864	18,875
韓国	6,085	3,648	1,278	11,011
アメリカ	2,678	2,264	921	5,863
中国	4,396	1,436	0	5,832
フランス	461	762	4,107	5,330
スイス	1,503	630	231	2,364
オランダ	455	0	1,644	2,099
ドイツ	638	276	0	914
ドイツ	226	562	68	856

出典:観光予約プラットフォーム

令和6年度

- うんぱく三城スタンプラリー  
【実施期間】9/13~11/30  
【参加者数】460名
- やくもとレンタカーで巡る山陰プラス旅  
【放映日】  
【視聴者数】3.2万人(youtube)

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
-------------------	--

所属	事業名(細々目名称)
(一社)中海・宍道湖・大山 圏域観光局	04 2025大阪・関西万博誘客事業 2025大阪・関西万博誘客事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	大阪・関西万博への訪日外国人来場者に、セカンドビジット先として山陰への誘客を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7目標
	目標(何を達成するのか)	圏域外国人宿泊数(人)	71,076	101,304	459,000	4,380
	訪日外国人宿泊数、観光消費額の増	観光消費額(億円)	846	874	1,160	1,182

事業内容	<p>大阪・関西万博の来場者(2,820万人(うち外国人350万人))にセカンドビジット先として山陰への来訪者獲得に繋がる取組を実施する。 ※関西または山陽経由での来訪を想定</p> <p>1 体験コンテンツの磨き上げ、販売促進 2 WEBを活用した情報発信 3 イベントを活用した誘客事業</p>
------	---

事業の成果及び実績	R5実績	R6実績	R7計画
	なし	<p>1 体験コンテンツの磨き上げ、販売促進 ・過年度に観光庁補助事業を活用し実施したコンテンツ造成事業や、圏域内事業者が実施している体験コンテンツについて磨き上げや、更なる販路拡大を行う。</p> <p>2 WEBを活用した情報発信 ・英語版ホームページやメディアを活用した情報発信(ホームページ多言語化)</p> <p>3 イベントを活用した誘客事業 ・広島からの誘客イベント実施(スポーツ会場でのイベント等)</p>	<p>1 体験コンテンツの磨き上げ、販売促進 ・過年度に観光庁補助事業を活用し実施したコンテンツ造成事業や、圏域内事業者が実施している体験コンテンツについて磨き上げや、更なる販路拡大を行う。</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6			R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費		9,500	8,500	4,174	3,500	
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	
	観光局自主財源	0	0	0	0	
	特定負担金	0	0	0	0	
	市長会負担金	9,500	8,500	4,174	3,500	
歳入合計		9,500	8,500	4,174	3,500	

課題	<p>これまで造成したコンテンツ等は、コロナ禍の影響もあり販売実績に至っていなかった。大阪・関西万博に向け、それらを磨き上げ有効活用をしていく必要がある。</p>	方向性	<p>これまで造成した事業を有効活用するための磨き上げや販路拡大の取組を実施する。</p>
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	訪ねてみたい圏域づくり
	基本目標	・観光地域づくりの促進 ・圏域観光の魅力向上
	主な取組み	国内誘客対策
圏域版第2次総合戦略	主要施策	国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
	重点プロジェクト	国内およびインバウンド観光の推進
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	年間	コンテンツの磨き上げ、販路拡大		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【主要データ】	<p>1. OTAセミナー 【開催日】1/30 【参加数】23社35名</p> <p>2. 広島カーブ主催試合での観光PR 【実施日】9/2 【実施結果】SNSの登録促進を実施。→X:24名、Instagram:126名のフォロワー増加。</p>

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
	<p>インバウンド、国内旅行について、圏域への総客に力を入れていかなければならない。日本全国同じような施策ではなく、よりインパクトのある方法も含めて、プロモーションを考えていかなければならない。</p>

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の連携・交流推進 圏域内の連携・交流推進

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の行政間や民間団体間、行政と民間団体等の更なる連携と交流を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	行政と民間団体等の更なる連携と交流の推進					

事業内容	<p>圏域で一体となって推進すべき事業の精査、検討を行い、各市、各団体間での連携・交流推進を図るとともに、特定の課題に対して各市間、および各団体との意見交換の場を設けるなど、連携を促進するための仕掛けづくりを行う。</p> <p>(1) 中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会との連携推進 ①意見交換会、合同勉強会の開催</p> <p>(2) 圏域内インフラ(中海架橋、米子道(蒜山IC～境港間)、境港出雲道路、境港米子道路、境港整備、新幹線整備など)の整備促進に関する要望活動の実施等、圏域一体となって取り組む事業の推進・強化 ①圏域内連携事業推進(圏域内インフラ整備にかかる要望活動) ②中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金 ③8の字ルート整備推進会議への助成金</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 2回</p> <p>2 圏域内インフラ整備促進に関する要望</p> <p>3 中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金</p> <p>4 全国街道交流会議第13回全国大会の開催(市長会発足10周年記念事業)安来市文化ホール アルテピア</p> <p>5 中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議の立ち上げ</p>	<p>1 ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 2回</p> <p>2 圏域内インフラ整備促進に関する要望</p> <p>①中海・宍道湖8の字ルート整備国交省要望 ②中国横断新幹線(伯備新幹線)整備国交省要望 ③境港整備国交省・両県選出国議員要望</p> <p>3 中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金</p> <p>4 中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議に対する助成金</p>	<p>1 ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会 2回</p> <p>2 圏域内インフラ整備促進に関する要望 ①中海・宍道湖8の字ルート整備国交省要望 ②中国横断新幹線(伯備新幹線)整備国交省要望 ③境港整備国交省・両県選出国議員要望</p> <p>3 中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議に対する負担金</p> <p>4 中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議に対する助成金 【新規】シンポジウム開催</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5		R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	予算	
事業費	11,490	6,790	6,779	6,228	8,670	
財源内訳						※特定負担金 伯備新幹線整備推進会議負担金
国・県支出金	0	0	0	0	0	
補助金	0	0	0	0	0	
特定負担金	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	
一般負担金	9,040	4,340	4,329	3,778	6,220	
歳入合計	11,490	6,790	6,779	6,228	8,670	

課題	整備促進の機運醸成が高まる、圏域8の字ルート、中国横断新幹線(伯備新幹線)、境港等圏域の交通ネットワークの整備実現に向けた取組みを、官民が一体となって継続する必要がある。	方向性	官民一体となって実施してきた要望活動が国の事業進捗を促している。 引き続き、圏域のスケールメリットを生かした要望活動等を実施するほか、整備後のまちづくりについて研究を行い、圏域住民に分かりやすく、インフラ整備の効果と重要性を伝え、更なる機運醸成を図る。
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	・活力にあふれる圏域づくり ・ともに歩む圏域づくり
	基本目標	未来を創造する圏域8の字ルート等の整備促進
	主な取組み	圏域内の連携・交流推進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	未来をひらく交通ネットワークの形成
	重点プロジェクト	2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成 新幹線ネットワークの整備
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月・2月	①ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会	7～8月	④関連事業 SDGSバスツアーの開催(圏域)
	夏期・秋期	②圏域インフラ整備係る要望活動		
	5月	③中国横断新幹線整備推進会議 負担金納付		
	2月	④全国街道交流会議第13回全国大会の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ	
【本事業の経過】	
1 ブロック経済協議会との合同勉強会・意見交換会	
H28	1 株式会社クルーズパケーション 代表取締役 木島 榮子 氏 2 中海・宍道湖・大山圏域DMO(仮称)の設立について
H29	1 兵庫県豊岡市 副市長(一社 豊岡観光イノベーション副理事長) 真野 毅 氏 2 国土交通省 観光庁 観光地域振興部長 米村 猛 氏
H30	1 一般社団法人 中国経済連合会 部長 高見 佳宏 氏 2 主催:市長会「台湾との経済交流等について」説明「新幹線について」報告
R1	1 主催:市長会「圏域版総合戦略」「新幹線整備促進」「台湾との経済交流等」報告 2 東京大学地域未来社会連携研究機構 機構長 松原 宏 氏
R2	1 読売テレビ報道局兼制作局チーフプロデューサー 境港市観光協会会長 結城 豊弘 氏 2 国土交通省中国地方整備局道路部長 松浦利之 氏
R3	1 東京大学地域未来社会連携研究機構 機構長 松原 宏 氏 2 クラブツーリズム株式会社 地域共創事業部 部長 樋山智彦氏
R4	1 東京大学未来ビジョン研究センター 教授 高村ゆかり氏 2 「中海・宍道湖・大山圏域8の字ルート研究会」中間報告 報告者:米子市 八幡総合政策部長 「8の字ネットワーク整備の効果分析の検討」について 報告者:松江国道事務所 近藤所長
R5	1 筑波大学 名誉教授 石田東生 氏 2 「重要インフラ圏域内連携策の検討について」報告者:ブロック経済協議会 幹事長 森田豊充 氏 内閣府 沖縄総合事務局 運輸部長 沖縄観光総合施策推進室長 星明彦 氏/一般社団法人Expe 代表理事 広瀬徹 氏 一般社団法人山陰インバウンド機構 代表理事 野浪健 氏
R6	1 「雲伯関係の今昔」NPO法人出雲学研究所 理事長 藤岡大拙 氏 中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議研修会 2 「地域と一体となった取組みの秘訣」四国経済連合会事務局次長 安藤栄祐 氏 「新幹線整備にかかる国の最新動向について」国土交通省鉄道局官房審議官 足立基成 氏
2 圏域内インフラ整備促進に関する要望活動の進捗	
①R7年度 中海・宍道湖8の字ルート 境港米子間の高規格道路が国土交通省の「計画段階評価」に着手され、3ルート案が提	
②R7年度 境港外港昭和南地区の新規岸壁整備事業が事業採択	

総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>1 8の字ルートはすべてのインフラについで有効活用するインフラであるとの位置づけと考える。早期整備に向けてそれを全面に出して取り組むべき。(R6年度)</p> <p>2 この圏域は経済圏域がまとまっていて、とても住みやすい。車で移動する方が多いため、暮らしている場所と働いている場所が違う方が多い。そういった方が困っている事が、圏域で何かをしようといった時の論点になるのではないかと。(R4年度)</p> <p>3 人口の社会増への対策として、行政・学校・経済界が連携し、圏域各市の様々な特色を生かした取組みにより、就職の機会を増加していくことが必要。(R4年度)</p>
-------------------	---

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 人材育成の共同化

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内における人的交流の推進による一体感の醸成を図り、圏域を担う人材育成に向けた取組を行う。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	次代を担う人事育成と、人的ネットワークの構築					

事業内容	<p>1 人材育成研修会「山陰まんなか未来創造塾」 中海・宍道湖・大山圏域の未来を切り開く推進力となる人材育成を目的に、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会と共同で研修会を開催し、受講者が多彩な分野講師による経験・理論を学んで視野を広げるとともに、企画力・想像力を磨く機会を提供する。受講者同士の交流を通じて業種や地域の垣根を越えた人的ネットワークの構築を推進する。</p> <p>2 発明楽普及支援事業「発明楽コンテスト」 圏域の高校生を中心とした次世代の産業人材の育成のため、困りごと解決のための技術・製品開発能力を競う発明案プレゼンテーションコンテストを開催する。</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 山陰まんなか未来創造塾 12月19日 講師:佐藤裕久氏 1月12日 地元企業視察:一畑電車株式会社 2月15日 地元企業視察 三光株式会社</p> <p>2 発明楽コンテスト 令和6年3月実施 鳥取県3校、島根県1校 計4校 総勢37名の高校生参加 このうち最終審査に圏域から、3校(米子東高校・米子西高・出雲高校)が会場</p>	<p>1 山陰まんなか未来創造塾 (1)開催日 3月3日 (2)内容 ① 講義「地域の魅力を世界へ 持続可能なまちづくりの実現」 講師 株式会社美ら地球CEO 山田拓 氏 ② グループワーク ③ 交流会 (3)参加者 30~40代の社員・職員 26人</p> <p>2 発明楽コンテスト (1)開催日 3月27日 (2)応募総数 鳥取県7校(18チーム) 島根県3校(20チーム) 総勢117名の高校生参加 このうち最終審査に圏域から3校(日野高校・米子西高校・米子北斗高校)が会場</p>	<p>1 山陰まんなか未来創造塾</p> <p>2 発明楽コンテスト</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,537	1,700		1,360	1,700
財源内訳					
国・県支出金	0	0		0	0
補助金	0	0		0	0
特定負担金	0	0		0	0
一般負担金	1,537	1,700		1,360	1,700
歳入合計	1,537	1,700		1,360	1,700

課題	<p>1 山陰まんなか未来創造塾は、事業開始当初から比べると、参加者が減少している。圏域の官民の若手人材が参加したくなるような内容や手法を検討する必要がある。</p> <p>2 発明楽コンテストは、高校生参加者の意欲は高い。課題解決の考え方や産業への興味を湧かせるための一層の周知とフォロー(特許取得など)の工夫が求められる。</p>	方向性	<p>圏域の行政と経済界が一体となった貴重な人材育成の機会となっており、行政と経済界で構成される実行委員会で、求められる人材や運営手法を協議し、今後の圏域を担う人材育成及び人的ネットワーク構築に寄与する研修会を継続して実施する。</p>
----	---	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	ともに歩む圏域づくり
	基本目標	デジタル時代を支える基盤整備と人材育成
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	圏域内の連携・交流推進
	主要施策	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域への移住・定住の促進
KPI		

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
			実行委員会の開催	9月~12月
		開催案内、受講生募集	2月~3月	発明楽コンテスト
		山陰まんなか未来創造塾の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ

【本事業の経過】

1 山陰まんなか未来創造塾【H25~H27年度】松江商工会議所事業【H28年度以降】市長会事業として実行委員会が開催

山陰まんなか未来創造塾 講師一覧(肩書は当時) 平成28年度~市長会事業

H28~市長会事業	予算額:5,500,000円 参加者:51名	R1	予算額:1,200,000円 参加者:41名
木村 俊昭 ロバート・キャンベル 井原 勝美 真鍋 精志	(一社)日本事業構想研究所 代表理事 東京大学大学院教授 ソニーファイナンスホールディングス 取締役会長 JR西日本 取締役会長	松橋 正明 宗次 徳二【中止】	(株)セブン銀行 専務執行役員 カレーハウスcoco壱番屋創業者
H29	予算額:2,700,000円 参加者:51名	R2	予算額:1,200,000円 参加者:33名
玉村 雅敏 横田 浩一 松本 謙	地方創生カレッジ官民連携講座 慶應義塾大学 総合政策学部教授 慶應義塾大学 大学院メディア研究科 樹形ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長	宗次 徳二 長谷川 幸洋	カレーハウスcoco壱番屋創業者 ジャーナリスト
H30	予算額:1,200,000円 参加者:41名	R3	予算額:1,200,000円 参加者:28名
藤山 浩 藤山 浩 デービッド・アトキンソン	(一社)持続可能な地域社会総合研究所 (一社)持続可能な地域社会総合研究所 (株)小西美術工芸社代表取締役	伊藤 聡子 永濱 利廣	キャスター コメンテーター エコノミスト
		R4	予算額:1,200,000円 参加者:30名
		殿村 美樹	PRプロデューサー
		R5	予算額:1,200,000円 参加者:40名
		佐藤 裕久 地元企業視察	(株)バルニバービ代表取締役会長CEO兼COO 一畑電車株式会社、三光株式会社
		R6	予算額:1,200,000円 参加者:26名
		山田 拓	株式会社美ら地球(ちゅらほし) CEO

2 発明楽コンテスト 鳥取大学医学部附属病院、BSS山陰放送が中心の発明楽コンテスト実行委員会が開催



総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>1 知財創造教育の普及、あるいは特徴ある教育として取り組んでいくことも考えられる(R元年度)</p> <p>2 費用対効果の検証が必要。特に、貴重な人材を派遣した民間の経営者の方がどう評価されているのか検証していくべき(R5年)</p> <p>3 市長会が目指す人材のビジョンが見えにくい(R5年度)</p>
-------------------	---

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 文化・スポーツ交流促進事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術など、相互交流を推進する。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。					

事業内容	<p>圏域内の歴史資源、伝統芸能、スポーツ、芸術等、相互交流を推進することにより、魅力ある圏域を知り、心豊かな生活環境を創出する。</p> <p>①トップアスリートや指導者を招いての、スポーツを通じた圏域交流イベントの開催</p> <p>②各市で開催される伝統芸能の披露などによる文化交流イベント開催支援</p> <p>③中海・宍道湖を活用したレガッタ大会開催に係る支援</p>
------	---

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 スポーツを通じた圏域交流イベント 「キッズふれあいスポーツフェスティバル」 ・令和6年2月23日 ・鳥取県立米子産業体育館 ・ガイナール鳥取、島根スサノオマジック、ディオッサ出雲FC</p> <p>2 各種イベントへの交流事業経費 ・よどえ夢まつり(米子市) ・第78回みなと祭り(境港市) ・玉造夜芸(松江市) ・松江水燈路(松江市) ・第18回出雲神話まつり(出雲市) ・第25回やすぎ刃物まつり(安来市)</p> <p>3 中海・宍道湖レガッタ開催支援</p>	<p>1 スポーツを通じた圏域交流イベント 「第6回キッズふれあいスポーツフェスティバル」 ・令和7年3月20日(木・祝) ・安来市民体育館 ・島根スサノオマジック、ディオッサ出雲FC</p> <p>2 各種イベントへの交流事業経費 ・第41回よどえ夢まつり(米子市) ・第79回みなと祭り(境港市) ・松江水燈路(松江市) ・第26回やすぎ刃物まつり(安来市) ・鼓動心響だんだん2025(米子市)</p> <p>3 中海・宍道湖レガッタ開催支援 ・令和6年9月29日(日)</p>	<p>1 スポーツを通じた圏域交流イベント 「第7回キッズふれあいスポーツフェスティバル」 ・令和8年2月21日(土) ・出雲だんだんとまとアリーナ ・ガイナール鳥取、島根スサノオマジック、ディオッサ出雲FC</p> <p>2 各種イベントへの交流事業経費</p> <p>3 中海・宍道湖レガッタ開催支援</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,957	2,400		937	1,600
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	1,957	2,400		937
歳入合計	1,957	2,400		937	1,600

課題	<p>1 圏域の小学1、2年生と保護者が対象で、参加希望が多いイベントである。トップアスリートと圏域の交流を主眼とした事業であるため、圏域内プロスポーツチームの参加が肝要であるが、試合日程などの都合で、開催調整が難しくなっている。</p> <p>2 中海・宍道湖レガッタは、参加者数が減少傾向にある運営団体の後継者不足の課題がある。</p>	方向性	<p>1 キッズスポーツフェスティバルは、プロチームの選手たちと触れ合える圏域ならではの事業である。参加希望が多くアンケート結果も好評であることから、効果分析を行い、スポーツを通じた更なる圏域の一体感の醸成を図られるよう事業継続していく。</p> <p>2 各種イベントへの交流事業は地域行事や郷土芸能等の継承に資するものとして継続していく。</p> <p>3 中海・宍道湖レガッタは、現状の課題を踏まえ、縮小・廃止・代替などの今後のあり方を運営団体と共に判断する。</p>
----	--	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	次代へつなぐ圏域づくり
	基本目標	歴史・文化の継承と活用
	主な取り組み	圏域内の連携・交流促進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	
	重点プロジェクト	
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	9月	第9回中海・宍道湖レガッタ大会(松江市)		
	適時	イベント交流事業		
	2月	第7回キッズふれあいスポーツフェスティバル		

本事業の経過及び関連する主要データ					
【本事業の経過】					
①スポーツを通じた圏域交流イベント					
H30予算において、圏域の冠大会ができないか提案があり予算化されたもの。その後、特定の競技で事業はなく、スポーツを通じた交流事業が2回開催されている。					
R1 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(松江市総合体育館)					
R2 新型コロナウイルス感染症の影響で開催見送り					
R3 新型コロナウイルス感染症の影響で開催見送り					
R4 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(松江市総合体育館)					
R5 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(鳥取県立米子産業体育館)					
R6 「～トップアスリートとあそぼう～ キッズふれあいスポーツフェスティバル」(安来市民体育館)					
●参加人数					
	H30	R1	R4	R5	R6
	124名(62組)	160名(80組)	84名(42組)	92名(46組)	76名(38組)
※R6 応募183組					
②各市で開催されるイベントにおける伝統芸能の披露など交流事業					
圏域住民の交流を促進し圏域の一体感醸成を推進するため、H22旧中海市長会時代から補助事業として実施。その後、委託事業。H30年度には圏域の伝統芸能祭が開催されたため、事業は実施されなかった。R1年度から再開されている。					
(R6事業実施状況)					
	開催市	イベント名	実施日	招致団体等	
	境港市	第79回 みなと祭	7月21日	安来節保存会(安来市)、関乃五本松節保存会(松江市)	
	安来市	第26回 やすぎ刃物まつり	10月5～6日	まつえ若武者隊、重吉伸一氏ほか1名(松江市)	
	松江市	松江水燈路	10月7日	尼子太鼓振興会(安来市)	
	米子市	第41回 よどえ夢まつり	10月27日	境港大漁太鼓(境港市)	
	米子市	鼓動心響だんだん2025	1月26日	出雲街道民謡交流会(松江市)	
③第8回 中海宍道湖レガッタ開催支援事業					
開催日: 令和6年9月29日(日)					
会場: 中浜港ポートコース(境港市夕日ヶ丘)					
参加者: 65名(12クルー)					
主催者: 中海宍道湖レガッタ実行委員会(松江漕艇協会、米子ローイング協会、境港ローイング協会)					
総合戦略推進委員会での評価及び意見					

圏域市長会 主要事業調書

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域内の交流推進 移住・定住促進事業

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域人口60万人の維持に向けた移住・定住等の促進を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	圏域内への移住・定住の促進 首都圏大学関係人口の創出 圏域での人材育成と若者の地域定着					

事業内容	<p>①婚活事業による移住・定住の促進に向けた取組 圏域内に居住、通勤通学または定住を考える独身男女を対象に、結婚相手のお出合い機会を創出する。未婚化、晩婚化の改善をはかり、圏域における移住・定住の促進につなげる。</p> <p>②東京大学との圏域キャンパス事業 首都圏大学に通う学生との関わりを持つことで関係人口の創出を図る。また圏域を研究フィールドとして提供し、圏域住民との交流を図る。</p> <p>③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 学生が圏域の特色・戦略・課題を学ぶ機会を創出し、圏域で活躍する人材の育成と、若者の地域への定着促進を図る。</p> <p>④圏域学生地域活動支援事業 圏域の学生による地域の魅力発信や活性化に資する活動に対し、助成を行い、地域に愛着を持つきっかけを作り、関係人口の拡大や地元への定着を図る。</p>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 婚活事業 事前セミナー(男性向け)、バスツアー、再会パーティを実施した。</p> <p>2 東京大学との圏域キャンパス事業 東京大学本学のプログラムに基づき、学生の体験活動プログラム、圏域でのフィールドワークを実施した。</p> <p>3 島根大学・若者を共に育てるプロジェクト ①「イノベーション創生セミナーⅠ」 地域人材育成コースの入学案内の作成 ②「イノベーション創生セミナーⅡ」 八束町大根島(松江市)</p>	<p>1 婚活事業 事前セミナー(男・女)、バスツアー2回(鳥取・島根)、再会パーティを実施した。</p> <p>2 東京大学との圏域キャンパス事業 東大体験活動プログラムで学生を受入れ、「宍道湖・中海の水環境と生態系」をテーマに、漁業体験や施設見学などを実施した。 ★5年間の功績により東大から特別表彰受賞</p> <p>3 島根大学・若者を共に育てるプロジェクト ①「イノベーション創生セミナーⅠ」 ・島大授業での5市からの環境施設の説明 ・5市でのフィールドワーク</p>	<p>①婚活事業 圏域のスケールメリットを活かした婚活イベント等を実施する。</p> <p>②東京大学との圏域キャンパス事業 東京大学本学のプログラムに基づき、学生の体験活動プログラムを実施し、交流人口の創出を図る</p> <p>③島根大学・若者を共に育てるプロジェクト 島根大学の学生に、圏域の特色や課題を学ぶ場を提供し、将来的に圏域で活躍する人材の育成と圏域への定着促進を図る</p> <p>④圏域学生地域活動支援事業 圏域の学生による地域の魅力発信や活性化に資する活動に対する、補助金の助成</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	2,299	3,130		2,148	3,130
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	926	1,300	1,300	1,300
	一般負担金	1,373	1,830	848	1,830
歳入合計	2,299	3,130		2,148	3,130

課題	<p>1 婚活事業や大学との連携事業は成果が数字で表れにくい、関係機関の協力を得てデータを分析・評価する必要がある。</p> <p>2 東京大学、島根大学との連携については、各市から提供できる内容のバリエーションを増やすとともに、各大学の目的に沿った取組みとなるように調整する必要がある。</p>	方向性	<p>1 婚活事業については、バスツアーが好評であるため継続してきたが、マンネリ化を防ぐため各市からメニューを募集し、新たなプログラム構成で実施していく。併せて成果の検証も継続していく。</p> <p>2 東京大学と連携した事業については学生の反応はすこぶる良く、受け入れ側の漁業者や施設管理者のモチベーションにつながっているが、体力的な負担も大きいため、事業効果等検証をしつつスリム化も検討する。</p> <p>3 島根大学との連携は各市の業務負担を調整しながら継続する。受講生の進路や地元定着率は今後数年をかけて大学と共に検証していく。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	ともに歩む圏域づくり
	基本目標	圏域への移住・定住の促進
	主な取組み	圏域内の連携・交流推進
圏域版第2次総合戦略	主要施策	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	重点プロジェクト	圏域への移住・定住の促進
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	8月	東京大学フィールドワーク受入		
	6月	島根大学(前期)フィールドワーク受入		
	11月	島根大学(後期)フィールドワーク受入		
	10月～12月	結婚促進事業の開催		

本事業の経過及び関連する主要データ									
【本事業の経過】									
1 婚活事業による移住・定住の促進に向けた取組み							※R元年度より市長会事業として実施。		
実績等							※R6参加者は住所ごとの合計		
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R4年度	R5年度	R6年度
応募者	239	293	246	234	238	325	-	-	-
参加者	207	251	178	151	141	155	45	48	48人
カップル成立	22	22	22	22	16	17	9	13	15組
追跡調査	6	8	4	2	1	1	-	-	7組
※令和2年度及び3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、結婚支援員を対象としたセミナーを開催。									
2 東京大学との圏域キャンパス事業									
①フィールドスタディ型政策協働プログラム									
地域課題解決に向けて、東京大学の学生が、事前調査、現地活動、事後調査を通じ、一年をかけて解決の道筋の提案を行う。									
②体験活動プログラム									
東京大学独自のプログラムとして平成24(2012)年度から国内外問わず実施。ボランティアなど社会貢献活動、国際交流、農林水産業や地域体験、学内研究室体験など、学生がこれまでの生活と異なる文化・価値観に触れる取組み。									
テーマ									
	フィールドスタディ型政策協働プログラム					体験活動プログラム			
R3	うんばく3城連携誘客について ～地域連携による滞在型ツーリズムをデザイン～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
R4	観光DXで中海・宍道湖・大山圏域の未来を描く～うんばく3城を中心に～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
R5	交流人口を呼び込め！～ココビトが綴る日本の面影～					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
R6	-					ラムサール条約湿地「宍道湖」「中海」で水環境と生態系保全の未来を考える			
3 島根大学・若者を共に育てるプロジェクト									
H31より開始。学生に各市の総合戦略についての説明、フィールドワーク等の協力をしている。									
R3 バスツアーによるフィールドワークにて、現地説明等を実施。									
R4 フィールドワークにおいて、現地説明等を実施。(前期:各市魅力発信に係るFW、後期:境港市と松江市の地域FW)									
R5 フィールドワークにおいて、現地説明等を実施。(前期:各市魅力発信に係るFW、後期:松江市の地域FW)									
R6 5市職員が島根大学の授業へ参加して、学生に各市の環境施策を説明(3回)、フィールドワークでの現地説明(1回)等を実施。									

総合戦略推進委員会での評価及び意見	
1	婚活イベントを行い成婚したとして、このことが本当に移住定住につながるか分析をする必要がある。(R5年度)
2	圏域は災害も少なく、暮らしやすい地域。生産年齢人口を増やすためにも、子育て世代が定着するような施策を行っていくべき。
3	結婚支援は広域で取り組むことは有効。(H30年度)

圏域市長会 主要事業調書

圏域市長会 主要事業調書	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	自然環境の保全・活用事業 自然の豊かさ・保全に係る普及啓発

※R3年度から、それまでの環境分野の2事業「自然環境学習」「自然環境広報啓発」を統合。

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域の次代を担う子どもたち等へ、自然環境に関する学習機会の提供等を行い、ラムサール条約登録湿地の中海・宍道湖をはじめとする圏域の自然の豊かさや環境保全について普及啓発を図る。	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	自然環境保全活動通じた郷土愛の醸成					

事業概要	<p>ラムサール条約登録湿地である中海・宍道湖をはじめとする圏域の豊かな自然や環境について、圏域の子どもたち等へ体験を通じて学習できる機会提供や情報発信企画等を行い、圏域の自然環境の普及啓発や保全、また、持続可能な開発目標(SDGs)に向けた取組の推進を図る。</p> <p>1 子ども探検スクールの開催 圏域の豊かな自然や環境施設等を活用し、自然環境や再生可能エネルギーについて、子どもたちが現地で学習できる機会等を提供する。</p> <p>2 自然環境の豊かさや保全等に係る情報発信 各関係団体との連携や各企画での情報発信等により、圏域の自然環境の豊かさや保全等に係る普及啓発を図る。</p>
------	--

	R5実績	R6実績	R7計画
事業の成果及び実績	<p>1 「子ども探検スクール」 ・自然環境学習 ・再生可能エネルギー学習</p> <p>〔夏季〕 境港、安来、松江、中海・境水道 〔冬季〕 中海、宍道湖、米子、出雲</p> <p>2 自然環境の豊かさや保全等に係る情報発信 (1)各関係団体の取組との連携 (2)水中ドローン等の映像による啓発活動</p>	<p>1 「子ども探検スクール」 圏域各市、中海・宍道湖を会場に開催 脱炭素、海洋ごみ、水環境、水鳥など</p> <p>〔夏季〕 境港、松江、出雲、安来、中海・境水道 〔冬季〕 宍道湖、奥大山、中海、米子</p> <p>2 自然環境の豊かさや保全等に係る (1)各関係団体の取組との連携 (2)30by30などの自然環境保全についての学習会を開催</p>	<p>1 「子ども探検スクール」 圏域各市、中海・宍道湖を会場に開催 脱炭素、海洋ごみ、水環境、水鳥など</p> <p>〔夏季〕 安来、松江(白鳥号)、出雲、境港、奥大山 〔冬季〕 宍道湖(斐伊川河口)、松江(堀川)、米子</p> <p>2 自然環境の豊かさや保全等に係る (1)各関係団体の取組との連携 (2)ブルーカーボン研修会 (3)中海・宍道湖ラムサール条約登録20周年記念事業</p>

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	1,620	1,950		1,029	1,800
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0
	補助金	0	0	0	0
	特定負担金	0	0	0	0
	一般負担金	1,620	1,950	1,029	1,800
歳入合計	1,620	1,950		1,029	1,950

課題	<p>県や関係団体の取組とも連携をしながら、カーボンニュートラル等新たな視点も入れ、事業展開を図る必要がある。</p>	方向性	<p>1 子どもに直接届く「体験」等を通じて、圏域の自然環境、再生可能エネルギーを学習する機会創出を図る。</p> <p>2 夏休みと冬休み期間中に開催する、圏域の小学4～6年生と保護者を対象とした「子ども探検スクール」は、毎年定員を上回る申し込みがあり、アンケート結果も好評であるため、継続実施する。</p>
----	---	-----	---

圏域振興ビジョン	基本方向	次代につなぐ圏域づくり
	基本目標	自然環境の保全と活用
	主要施策	自然環境の保全と活用
圏域版第2次総合戦略	主な取組み	恵まれた生活環境を生かした圏域の形成
	主要施策	自然環境の保全と活用
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	6月～	情報発信	12月	ブルーカーボン研修会
	8月	子ども探検スクールの開催〔夏企画 5回〕	10月～3月	ラムサール条約登録20周年記念事業
	11月～2月	子ども探検スクールの開催〔冬企画 3回〕		

本事業の経過及び関連する主要データ						
【開催状況】自然環境学習						
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
開催回数	3回	4回→3回	5回→4回	5回	3回	2回→1回
会場	・7/27(金) 波入港発 中海 ・7/31(火) 安来港発 中海 ・8/2(水) 湖遊館発 宍道湖	・8/2(金) 米子港発 中海 ・8/6(水) 湖遊館発 宍道湖 ・8/9(金) 波入港発 中海 ・10/26(土) 奥出雲町船通山島上湾コース登山→台風接近により中止	・8/1(金) 安来港発 中海 ・8/6(水) 湖遊館発 宍道湖→荒天中止 ・8/8(金) 波入港発 中海 ・2/21(土) 中海コース ・2/21(土) 宍道湖コース	・7/31(金) 米子港発 中海 ・8/5(水) 湖遊館発 宍道湖 ・8/7(金) 波入港発 中海 ・3/25(金) 宍道湖コース ・3/27(日) 中海コース	・8/10(水) 湖遊館発 宍道湖 ・8/11(木) 安来港発 中海 ・8/29(月) 米子港発 中海	・8/9(水) 松江港発 宍道湖 ・8/10(木) 米子港発 中海→雨天中止
参加者数(人)	・7/27定員120/参加児51保24計75 ・7/31定員70/参加児46保22計70 ・8/2定員70/参加児15保11計26	・8/2定員50/参加児36保16計52 ・8/6定員50/参加児22保15計37 ・8/9定員50/参加児24保8計32 ・10/26定員40/参加児9保5計14→中止	・8/1定員40/参加児15保4計19 ・8/6定員40/参加児32保10計42→中止 ・8/8定員40/参加児15保4計19 ・2/21中海定員20/参加児22保14計36 ・2/21宍道湖定員20/参加児26保20計46	・7/31定員40/参加児26保6計32 ・8/5定員40/参加児11計38 ・8/7定員40/参加児19保11計30 ・3/25定員30/参加児14保9計23 ・3/27定員30/参加児14保8計22	・8/10定員40/参加児25保11計36 ・8/11定員40/参加児23保11計34 ・8/29定員35/大人32	・8/9定員40/参加児27保9計36 ・8/10定員40/参加児22保4計26→中止
合計	定員260/参加児114保57計171	定員150/参加児82保39計121 ※中止分含めず	定員120/参加児78保42計120 ※中止分含めず	定員180/参加児100保45計145	定員115/参加児48保(大人)94計102	定員40/参加児27保9計36 ※中止分含めず
年度	H30	R1	R3	R4	R5	R6
開催回数	2回	5回	2回	7回	8回	9回
会場	・7/30(月) 安来港発 中海 ・8/1(水) 松江港発 宍道湖	・8/7(水) 松江港発 宍道湖午前 ・8/7(水) 松江港発 宍道湖午後 ・8/8(木) 島根町発 加賀の瀬戸 ・8/20(火) 安来港発 中海 ・8/21(水) 江府町発 木谷沢渓流	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・境港、米子、安来、松江会場 ※コロナウイルス感染症拡大のため中止 〔冬季〕(水鳥観察) 出雲、米子会場	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・安来、松江、境港 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子、出雲 ・中海、宍道湖(クルーズ)	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習等) ・安来、松江、境港、中海・境水道 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子、出雲、宍道湖 ・中海(クルーズ)	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習等) ・境港、松江、出雲、安来、中海・境水道 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・奥大山、米子 ・宍道湖、中海(クルーズ)
参加者数(人)	・7/30定員40/参加児22保4計26 ・8/1定員40/参加児30保7計37	・8/7定員30/参加児13 ・8/7定員30/参加児16 ・8/8定員20/参加児18 ・8/20定員30/参加児19 ・8/21定員20/参加児7	〔冬季〕 ・12/18AM 出雲 児9 保7 計16 ・12/18AM 出雲 児8 保8 計16 ・12/19 米子 児5 保5 計10 合計 定員60/参加児42 児童22保20 ※中止分含めず	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・安来 児19 保17 計36 ・松江 児7 保6 計13 ・境港 児8 保7 計15 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子 児9 計9 ・出雲 児10 保10 計20 ・中海 児8 保10 計18 ・宍道湖 児10 保10 計20 合計131 児童71保60	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・境港 児14 保13 計27 ・安来 児6 保6 計12 ・松江 児13 保12 計25 ・中海・境水道 児19 保19 計38 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・米子 児7 保6 計13 ・出雲 児8 保11 計19 ・中海 児9 保9 計18 ・宍道湖 児5 保3 計8 合計169 児童88 保81	〔夏季〕(工場見学、海洋ごみ学習) ・境港 児10 保10 計20【申込43】 ・松江 児6 保6 計12【申込71】 ・出雲 児13 保10 計23【申込32】 ・中海・境水道 児15 保13 計28【申込220】 〔冬季〕(工場見学、水鳥観察) ・宍道湖 児9 保7 計16【申込21】 ・奥大山 児12 保14 計26【申込31】 ・中海 児9 保9 計18【申込42】 ・米子 児7 保9 計16【申込22】 合計159 児童81 保78 【申込482】

※R2は新型コロナウイルス感染症拡大のため実施せず

総合戦略推進委員会での評価及び意見	<p>米子市と境港市では脱炭素の先行的な取り組みを行っている。各市が連携して圏域の脱炭素・カーボンニュートラルを取り入れたまちづくりを進めてはどうか。(R4年度)</p>
-------------------	---

所属	事業名(細々目名称)
圏域市長会事務局	圏域情報の共有・発信 圏域内外へのエリアプロモーション

事業の目的と目標	目的(何のために)	数値目標				
	圏域内での一体感醸成、圏域外における知名度向上	項目(成果指標)	R5実績	R6実績	第2期目標	R7計画
	目標(何を達成するのか)	設定なし				
	改訂した圏域振興ビジョンについて周知を強化する。					

事業内容	圏域振興ビジョンに示す圏域の将来像、ビジョンや市長会の活動の広報周知に努めるとともに、圏域内での一体感醸成、圏域外における認知度向上のための情報発信を行う。
------	--

事業の成果及び実績	R5実績	R6実績	R7計画
	①ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知	①ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知 ②圏域5市広報紙への「市長会通信」の掲載	①ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知 ②圏域5市広報紙への「市長会通信」の掲載

歳入・歳出の推移(単位:千円)	R5	R6		R7	備考
	決算	当初予算	補正・流用後	決算	
事業費	178	195	207	207	210
財源内訳					
国・県支出金	0	0	0	0	0
補助金	0	0	0	0	0
特定負担金	0	0	0	0	0
一般負担金	178	195	207	207	210
歳入合計	178	195	207	207	210

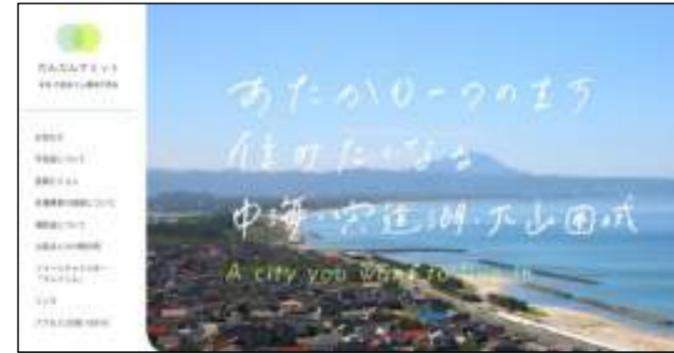
課題	<p>1 既存の媒体のみならず、SNS等での情報発信が有効な手段であるが、本格着手できていない。</p> <p>2 圏域が抱える様々な課題に対する取り組みや成果を、わかりやすく住民や企業・団体に伝える必要がある。</p> <p>3 圏域の一体感を醸成する情報発信も求められている。</p>	方向性	<p>1 ホームページや市長会通信の運用は継続しつつ、SNSやデザイン性のあるチラシなどを活用し、幅広い年齢層への情報伝達に取り組む。</p> <p>2 振興ビジョンや総合戦略に基づく事業について、進捗や成果について、経済界、総合戦略推進委員会等の外部団体の意見も踏まえ、発信していく。</p> <p>3 歴史や文化、地理的要件などの要素も踏まえ、古くからこの圏域が繋がってきたことを伝えていく。</p>
----	--	-----	--

圏域振興ビジョン	基本方向	・ともに歩む圏域づくり
	基本目標	
	主な取り組み	
圏域版第2次総合戦略	主要施策	
	重点プロジェクト	
	KPI	

R7スケジュール	時期	実施内容	時期	実施内容
	通年	ホームページを活用した情報発信	3月	各市広報紙への市長会通信掲載
	6月	各市広報紙への市長会通信掲載		
	9月	各市広報紙への市長会通信掲載		
	12月	各市広報紙への市長会通信掲載		

本事業の経過及び関連する主要データ

- 【本事業の経過】
- 1 中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンの印刷製本  
令和3年度に改訂した、「圏域振興ビジョン」を印刷製本し、各関係間に配布し振興ビジョンの内容の周知を図った。
  - 2 ホームページ等を活用した圏域内外への広報周知  
(1)H24年にホームページを作成してから、小規模な改修は行ったものの、スマートフォンに対応していないなど、抜本的な改修が必要な状況であったことから、R4年度に改修を実施した。  
(2)ホームページに住民向けのイベント情報や企業・団体向けの補助金情報などを掲載し広報周知を図った。



- 3 5市の広報紙面を使って4半期ごとに「市長会通信」を掲載し、住民向けに市長会活動を伝達した。



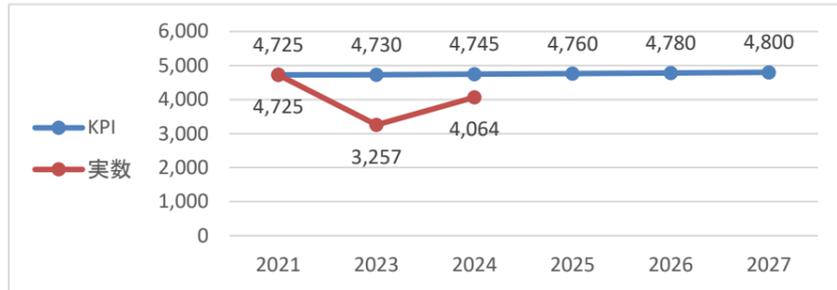
総合戦略推進委員会での評価及び意見

- 1 生産年齢人口の減少や労働者の高齢化が進んでいる。この状況を解消するために関係人口の構築や社会インフラの整備が必要。
- 2 ある程度の水準の住みやすさを感じている、圏域の住みやすさを圏域外にもっと発信すべき。(R4年度)

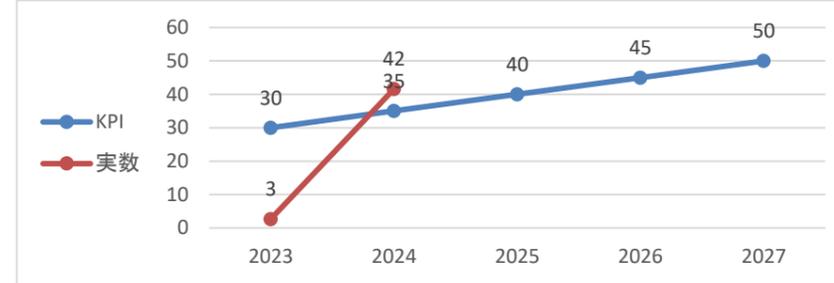
1. 事業名：中海・宍道湖・大山圏域 台湾との経済交流促進による中小企業活性化事業

2. KPI

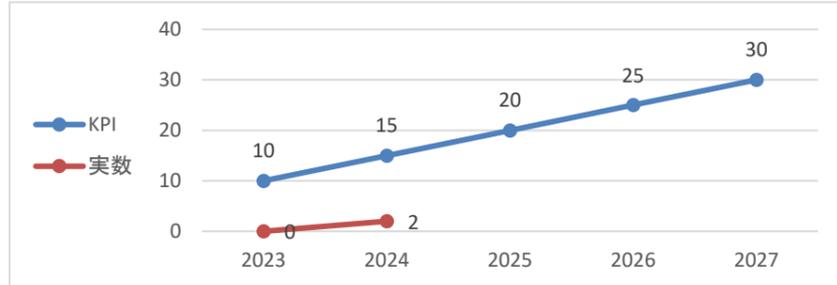
① 境港における台湾との貿易額



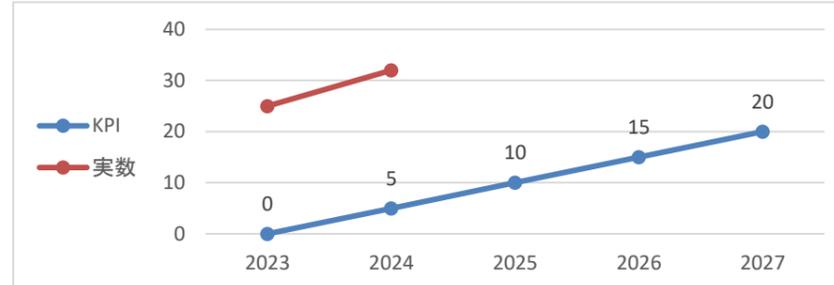
② 商談会等におけるマッチング件数の割合



③ 商談会等における成約及び成約見込み数の割合



④ 台湾向け商品の作成・提案件数



※事業の詳細は資料3 P.5 及び 補足資料1 P.8 のとおり

【事業効果】の選択肢

- 達成率が100%以上の場合  
⇒ 地方創生に非常に効果があった
- 一部のKPIが目標に達しなかったものの、概ね成果が得られた場合  
⇒ 地方創生に相当程度効果があった
- 達成状況はかんばしくなかったものの、取組そのものは前進した場合  
⇒ 地方創生に効果があった
- KPIも悪化し取組も前進していない場合

① 事業効果	② 外部有識者からの評価		③	
	事業の評価	意見	今後の方針	方針の理由
地方創生に効果があった ・FOODTAIPEI出展及び出展支援 ・台北温泉祭、春節前建国花市において、圏域のPR ・台湾と圏域との文化交流を実施（春節前建国花市） ・台湾での経済活動、FOOD台北に向けたオンラインセミナー ・圏域内企業へ台湾、インドにかかるアンケート、意識調査 経済活動に限らず、圏域と台湾との関係を強化し、台湾進出の足がかりとなる事業を実施した。				